

tisf

国際科学映像祭



第6回  
国際科学映像祭

開催報告書 2015



## 第 6 回国際科学映像祭：ごあいさつ

第 6 回を数えた国際科学映像祭について、ここにご報告いたします。2015 年は、国際連合の定める「国際光年（IYL2015）」ということで、この「光」をテーマに、多様な視点から制作された科学映像を紹介したいと考えて開催テーマとしました。

平成 27 年 8 月 1 日から 9 月 30 日まで、中野ゼロプラネタリウムでのキックオフ、郡山市ふれあい科学館でのドームフェスタの 2 つのイベント、そして全国 44 施設、17 社の協賛を得て実施されたスタンプラリーを滞りなく実施できました。

映像祭にエントリーされたドーム映像作品は長編、トレーラー合わせて 26 作品、ショートプログラム・コンテスト応募作品 6 作品、これらをすべて開催期間中に上映し、ショートプログラムコンテストでは地元の内田 章（国際アート&デザイン専門学校）氏、寺園淳也（会津大学）氏を含めた審査員により 4 作品に賞を、長編作品は上映会に参加された一般市民を含む人気投票により、3 位まで表彰させていただきました。

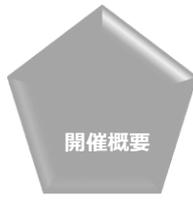
今年も招待講演をニューヨーク市アメリカ自然史博物館、地球・宇宙ローズセンターの宇宙可視化担当ディレクター、カーター・エマート氏、さらにヨーロッパ南天天文台（ESO）の教育・広報部門で活躍されているラース・リンドバーク・クリスチャンセン氏に講演していただき、さらに開催テーマに合わせて国際天文学連合国際普及室（OAO）の企画による光害について考える特別セッションを開催しました。

映像祭実施に当たり中心となった国際科学映像祭実行委員会、国立天文台天文情報センター、スタンプラリー協賛団体、ドームフェスタ会場として、施設利用に協力いただいた郡山市、郡山市教育委員会、郡山市ふれあい科学館（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）、作品上映のための準備から実施まで受け持っていたいただいた五藤光学研究所、ご後援いただいた関係団体、諸氏に厚くお礼申し上げます。

次回は、運営体制を民間ベースとした新組織での体制で継続する予定です。6 回まで会を重ねた経験と実績をもとに進めてまいりたいと考えています。今後ともみなさまのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

第 6 回国際科学映像祭実行委員長 鷹 宏道





## 第6回国際科学映像祭：開催概要

開催期間：2015年8月1日(土)～9月30日(水) 計61日間

参加総数：全国で、のべ100万人(概数)

参加施設：日本国内の科学館・プラネタリウム、シアターなど49施設

### 開催趣旨

第6回国際科学映像祭は、2015年が、国際連合の定める、「国際光年(IYL2015)」でしたので、「光(ひかり)」をテーマに開催しました。コアイベントとしてキックオフイベント、ドームフェスタ、スタンブラリーを開催し、多くの方に科学映像をご覧いただく機会を提供し、映像に関わる制作者などの情報交換や作品発表の場としました。

#### ○コアイベントの概要

##### ・キックオフイベント

内容：最先端の研究者やクリエイターによるイマージン映像の未来をさぐるワークショップを開催した。

開催日：2015年8月3日(月)

会場：なかのZEROプラネタリウム

参加人数：68人

##### ・ドームフェスタ

内容：国内外のドーム映像・科学映像作品の上映、海外からの招待講演、ショートプログラムコンテスト、関連企業ブース展示を開催した。

開催期間：2015年9月23日(水)

～26日(土) 4日間

会場：郡山市ふれあい科学館

参加人数：1250人(各セッションごとのべ人数)

##### ・スタンブラリー

内容：全国44のスタンブラリー参加施設のスタンプを、3館以上押して応募していただき、抽選で記念品をお送りした。

開催期間：2015年8月1日(土)

～9月30日(水) 61日間

会場：日本国内の科学館・プラネタリウム館

・シアターなど

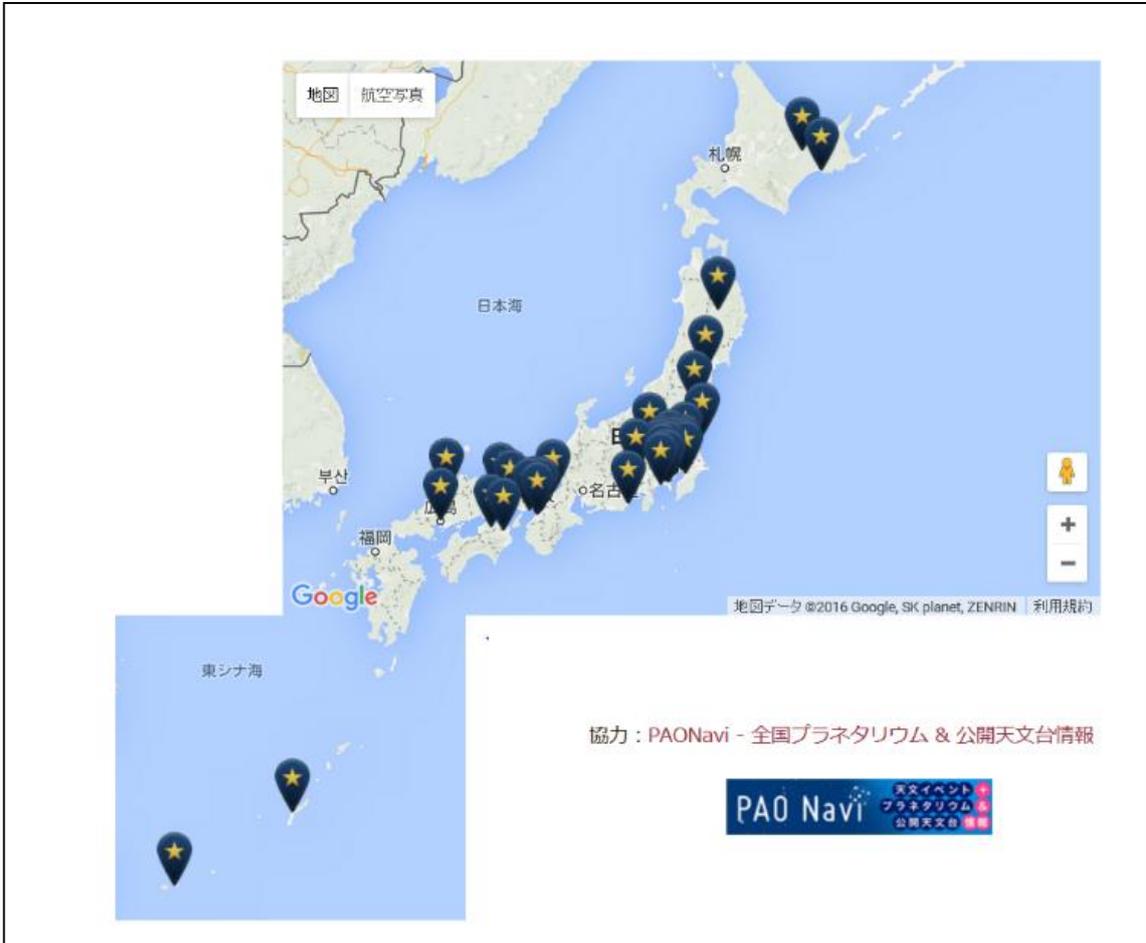
応募総数：422

### 参加施設

りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)  
釧路市子ども遊学館  
盛岡市子ども科学館プラネタリウム室  
仙台市天文台  
郡山市ふれあい科学館 宇宙劇場  
つくばエキスポセンター  
日立シビックセンター 天球劇場  
高崎市少年科学館 プラネタリウム  
さいたま市青少年宇宙科学館  
さいたま市宇宙劇場  
白井市文化センター・プラネタリウム  
千葉県科学館  
船橋市総合教育センタープラネタリウム館  
東大和市立郷土博物館  
株式会社アイカム・ドーム室  
板橋区立教育科学館  
葛飾区郷土と天文の博物館  
ギャラクシティまるちたいけんドーム  
国立科学博物館 シアター360  
コニカミノルタプラネタリウム“天空” in 蕨スカイリ-タウン®  
コニカミノルタプラネタリウム“満天” in Sunshine City  
国立天文台 4D2Uドームシアター  
多摩六都科学館  
中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)  
日本科学未来館  
コニカミノルタサイエンスドーム(八王子市子ども科学館)  
府中市郷土の森博物館  
プラネターリアム銀河座  
はまぎん 子ども宇宙科学館 宇宙劇場  
かわさき宙(そら)と緑の科学館(川崎市青少年科学館)  
相模原市立博物館  
平塚市博物館  
藤沢市湘南台文化センター子ども館  
山梨県立科学館  
ディスカバリーパーク焼津天文科学館プラネタリウム  
ラフォーレ琵琶湖 デジタルスタードームほたる  
大阪科学技術館  
大阪市立科学館プラネタリウム  
堺市教育文化センター ソフィア・堺 プラネタリウム  
東大阪市立児童文化スポーツセンター ドリーム21  
バンドー神戸青少年科学館  
兵庫県立大学天文科学センター西はりま天文台  
姫路科学館プラネタリウム  
島根県立三瓶自然館サヒメル  
広島市子ども文化科学館  
あすたむらんど徳島 子ども科学館 プラネタリウム  
さぬきこどもの国スペースシアター  
石垣島天文台「星空学びの部屋」



# 第6回国際科学映像祭：開催概要



INTERNATIONAL  
YEAR OF LIGHT  
2015



※入場者観覧者数共に空欄の会場は、未回答

| 参加施設名                               | 都道府県 | 電話              | 観/代外 | 観/代外 | 総入場者数   | 総観覧者数   |
|-------------------------------------|------|-----------------|------|------|---------|---------|
| 釧路市子ども遊学館                           | 北海道  | 0154 32 0122    | ○    | ○    |         |         |
| りくべつ宇宙地球科学館（銀河の森天文台）                | 北海道  | 0156-27-8100    | ○    | ○    | 2,913   | 912     |
| 盛岡市子ども科学館                           | 岩手県  | 019-634-1171    | ○    | ○    | 36,672  | 7,579   |
| 仙台市天文台                              | 宮城県  | 022-391-1300    | ○    | ○    |         | 7,447   |
| 郡山市ふれあい科学館（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）      | 福島県  | 024-936-0201    | ○    | ○    | 35,429  | 19,809  |
| 公益財団法人つくば科学万博記念財団 つくばエキスポセンター       | 茨城県  | 029-858-1100    | ○    | ○    | 50,440  | 32,600  |
| 公益財団法人日立市民科学文化財団 日立シビックセンター         | 茨城県  | 0294-24-7731    | ○    | ○    | 42,750  | 15,402  |
| 高崎市少年科学館                            | 群馬県  | 027-321-0323    | ○    | ○    | 27,230  |         |
| さいたま市青少年宇宙科学館                       | 埼玉県  | 048-881-1515    |      | ○    |         | 23,001  |
| さいたま市宇宙劇場                           | 埼玉県  | 048-647-0011    | ○    | ○    |         |         |
| 白井市文化センター・プラネタリウム                   | 千葉県  | 047-492-1125    | ○    | ○    | 95,383  | 3,793   |
| 千葉市科学館                              | 千葉県  | 043-308-0511    | ○    | ○    |         | 36,812  |
| 船橋市総合教育センタープラネタリウム館                 | 千葉県  | 047-422-7732    | ○    | ○    |         | 4,024   |
| 東大和市立郷土博物館                          | 東京都  | 042-567-4800    | ○    | ○    |         |         |
| 株式会社アイカム                            | 東京都  | 03-3960-9611(代) | ○    | ○    |         | 16      |
| 板橋区立教育科学館                           | 東京都  | 03-3559-6561    | ○    |      | 48,492  | 7,447   |
| 葛飾区郷土と天文の博物館                        | 東京都  | 03-3838-1101    | ○    | ○    |         |         |
| ギャラクシティ                             | 東京都  | 03-5242-8161    | ○    |      |         |         |
| 国立科学博物館                             | 東京都  | 03-5814-9852    | ○    | ○    | 509,827 | 108,288 |
| コニカミノルタプラネタリウム“天空” in 東京スカイツリータウン   | 東京都  | 03-5610-3043    | ○    | ○    |         |         |
| コニカミノルタプラネタリウム“満天” in Sunshine City | 東京都  | 03-3989-3546    | ○    | ○    |         |         |
| 自然科学研究機構国立天文台 4D2U ドームシアター          | 東京都  | 0422-34-3572    | ○    | ○    |         | 1,543   |
| 多摩六都科学館                             | 東京都  | 042-469-6100    | ○    | ○    | 65,353  | 54,222  |
| 中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)                 | 東京都  | 03-3546-5537    | ○    | ○    | 10,210  | 4,904   |
| 日本科学未来館                             | 東京都  | 03-3570-9151(代) | ○    |      | 278,906 |         |
| コニカミノルタサイエンスドーム（八王子市子ども科学館）         | 東京都  | 042-624-3311    | ○    | ○    | 24,048  | 17,115  |
| 公益財団法人府中文化振興財団                      | 東京都  | 042-368-7921    | ○    | ○    | 49,458  | 15,767  |
| プラネターリアム銀河座                         | 東京都  | 03-3696-1170    | ○    | ○    |         |         |
| はまぎん 子ども宇宙科学館                       | 神奈川  | 045-832-1166    | ○    | ○    | 81,192  | 40,554  |
| 川崎市青少年科学館（かわさき宙と緑の科学館）              | 神奈川  | 044-922-4731    | ○    |      | 58,264  | 23,001  |

## 協力会場：一覧

| 参加施設名                           | 都道府県 | 電話              | 土/代 | 別 | 総入場者数                    |
|---------------------------------|------|-----------------|-----|---|--------------------------|
| 相模原市立博物館                        | 神奈川県 | 042-750-8030    | ○   |   | 29,015                   |
| 平塚市博物館                          | 神奈川県 | 0463-33-5111    |     | ○ |                          |
| 藤沢市湘南台文化センターこども館                | 神奈川県 | 0466-45-1500    | ○   | ○ | 50,469 18,275            |
| 山梨県立科学館                         | 山梨県  | 055-254-8151    | ○   | ○ | 45,262 18,080            |
| ディスカバリーパーク焼津天文科学館               | 静岡県  | 054-625-0800    | ○   | ○ | 41,475 16,858            |
| ラフォーレ琵琶湖 デジタルスタードームほたる          | 滋賀県  | 077-585-3811    |     | ○ |                          |
| 大阪科学技術館                         | 大阪府  | 06-6441-0915    | ○   | ○ | 56,570                   |
| 大阪市立科学館                         | 大阪府  | 06-6444-5656    |     | ○ | 15,402                   |
| 堺市教育文化センター ソフィア・堺 プラネタリウム       | 大阪府  | 072-270-8110    | ○   | ○ | 12,550 10,211            |
| 東大阪市立児童文化スポーツセンター ドリーム21        | 大阪府  | 072-962-0211    |     | ○ |                          |
| バンドー神戸青少年科学館                    | 兵庫県  | 078-302-5177    |     | ○ | 111,364 36,812           |
| 兵庫県立大学自然・環境科学研究所天文科学センター西はりま天文台 | 兵庫県  | 0790-82-3886    | ○   | ○ | 19,777                   |
| 姫路科学館                           | 兵庫県  | 079-267-3001(代) | ○   | ○ | 15,767                   |
| 島根県立三瓶自然館サヒメル                   | 島根県  | 0854-86-0500    | ○   | ○ | 41,551 8,521             |
| 広島市こども文化科学館                     | 広島県  | 082-222-5346    | ○   | ○ | 106,988 17,021           |
| あすたむらんど徳島                       | 徳島県  | 088-672-7111    | ○   | ○ | 16,377                   |
| さぬきこどもの国                        | 香川県  | 087-879-0500    | ○   | ○ | 18,080                   |
| 石垣島天文台                          | 沖縄県  | 0980-88-0013    | ○   | ○ |                          |
| 沖縄科学技術大学院大学                     | 沖縄県  | 098-966-2328    |     | ○ |                          |
| <b>合計</b>                       |      |                 |     |   | <b>1,931,588 645,959</b> |



全国の科学館等が、一体となって行う本イベントは、刺激もあり、大変意義あるものだと思います。当館はプラネタリウムの施設がなく、あまりお役に立てていないと思いますが、パンフレット等に当館を記載頂き広報効果もございました。心より御礼申し上げます。

映像については、テーマに沿ったソフトを事務局から推薦があれば有難いです。

厳しい予算の中とは存じますが、今後とも是非継続して下さいます様どうぞよろしくお願い致します。

**大阪科学技術館 松本尚子**

科学映像祭のポスターやチラシを興味深そうにご覧になる方はいらっしゃったものの、スタンプ押印に関しては一組お問い合わせがあっただけだった。例年数組お問い合わせがあるかどうかといった状況。

イベント自体の案内チラシや、近隣の参加館の情報などを提示するなど何かしら工夫が必要だと感じた。

**徳島県立あすたむらんど 安藤 徹**

映像祭の期間中の上映会は2日間、アイカムで毎月行っているドーム映像の映写会に来られたのが16人です。みなさん楽しんで帰られ、子供を連れてまた見に来たい、続編楽しみですという方もいました。国際科学映像祭よりも、東京国際科学フェスティバルの広報で知って来られた方が大部分だったようです。

来てから、映像祭とスタンプラリーを紹介したので、スタンプを押して帰られた親子が、その後、他も回って応募してくれたことを知り、嬉しく思いました。

**株式会社アイカム 川村智子**

当館ではスタンプラリーを実施しました。

台紙を3,000枚いただきましたが、それでも不足し台紙を1,000枚コピーして計4,000枚配布しました。

残念ながら、来館記念スタンプ代わりに利用されるお客様が多く、本来の目的が果たせませんでした。国際科学映像祭の存在はある程度周知できたのではないかと思います。

**多摩六都科学館 天文チーム  
雨森 勇一**

送付いただいたチラシが無くなった後は、チラシをコピーして配架した。チラシの減り具合から、昨年度と比較すると、スタンプラリーの参加者が若干少なかったと思われる。

**はまぎん こども宇宙科学館  
弓削田 法子**

夏休みの企画展「ポケモン研究所～キミにもできる！新たな発見～」の開催期間中で、ご家族でのお客様の来館が増えた影響もあり、スタンプラリー参加者にもつながったと分析する。

**日本科学未来館 事業部運営管理課  
栄井隆典**

夏休み期間中、夏の特別展「宇宙への挑戦」を開催していたこともあり、多くの来場者数でにぎわいました。

当館オリジナルのスタンプラリーもあるため、場所を分けて設置しました。

特に混乱もなく、会期を終えることができました。

**バンドー神戸青少年科学館  
施設運営ディレクター 児島 貴子**

今年はスタンプラリーの台紙がついて、見栄えもよかったです。有難うございます。

しかし、例年より台紙の減りが少なかったように感じました。

スタンプラリーをきっかけに来館いただくお客様や、また当館に足を運んだことで他館に足を運んでいたきっかけに少なからずなっていると思います

**(公財) つくば科学万博記念財団/  
つくばエキスポセンター 菊川真以**

映像祭のパンフレット等を手に来館される方もありましたが、来館者数自体は昨年を下回っており、映像祭の効果は明らかではありません。

**かわさき宙と緑の科学館 弘田澄人**

スタンプは、8月中は、当館で実施した、月がテーマの夏休み特別企画展示室内に、9月に入ってからはプラネタリウム出口前に設置して、プラネタリウムを観覧する前後のお客様にご利用いただきました。プラネタリウム投影においては、国際光年のプロモーションビデオを活用し、当映像祭と連携させて周知をしました。

**中央区立郷土天文館 橋本京子  
(受付・プラネタリウム運営)**

例年スタンプラリー施設として参加を重ねることで、首都圏から遠隔ではあるものの、来館者の認知度が少しずつ高まっているように感じます。毎年夏休み～9月まで夏の企画展期間であり、大型ドーム映像の特別番組を上映していることから、この企画は連動してPRできる良い機会と考えております

**島根県立三瓶自然館サヒメル  
太田哲朗**

今回は、国際科学映像祭に参加する館が当館の近くに無いため、スタンプラリー目的の来館者はだいぶ少なくなったと思われる。

**高崎市少年科学館 天文課 小山弘宣**

今年度は当館が「ドームフェスタ」開催館ということもあり、国際科学映像祭に対する認知度が地元において向上しました。

スタンプラリーについては、夏休みに帰省した方々の参加もあったかと思いますが、近隣に参加施設が少ないこともあり、3つ集めることが難しかったかもしれません。

**郡山市ふれあい科学館 企画運営課  
安藤 享平**

## 協力会場：感想

用紙を他館で貰ったという来館者がチラホラいらっしゃいました。

### 船橋市総合教育センター・プラネタリウム館 プラネタリウム 丸井恵美子

お疲れさまでした。

スタンプラリーで多少は興味を引けましたが、もう少し、多くの方に知っていただけるようにできたらよかったです。次年度は、何か関連イベントを組むなり考えられたらと思います。

### 府中市郷土の森博物館 本間隆幸

夏休み期間や、例年にない秋の大型連休と重なったことから、多くの来場者があった。

特に、一日の中で複数の映像作品を上映したことから、同じ人が複数を観覧された場合もあった。

来年度も開催される場合には、さらに充実した内容で参加したい。

### ディスカバリーパーク焼津天文科学館 事業課 原秀夫

昨年度までと同様、当館ではスペースシアター入り口付近にポスターと台紙を設置した。数としてはあまり多くなかったが、ときおり他施設でスタンプを押した台紙を持参するお客様も見かけた。

当館でのスタンプラリー実施以上に、映像祭ウェブサイトでのトレーラーを含む番組紹介や、ドームフェスタでの番組上映などによって、当館のオリジナル制作番組をより広く知っていただく機会となったと思う。

### 山梨県立科学館 井上 拓己

当館は、「スタンプラリー参加会場」の一つとしての協力態勢ではありますが、参加者増加及び広く周知するための一助として、市広報紙をはじめとした媒体についても、次年度以降は掲載していきたいと思えます。

また、必要なスタンプ押印数が、3箇所となったことについては、利用者の方から、(4箇所の時と比較して)集めやすくなり、スタンプラリー参加にあたっての敷居が低くなったとの感想を頂いたケースがありました。

### 相模原市立博物館 有田

夏休みという事もあり、家族連れで賑わいました。

### 板橋区立教育科学館 副館長 持永雅之

関西周辺のスタンプラリー参加施設の変化を見ると、いったん参加していた施設が継続していなくなったりするようです。そういった施設にも事情をお聞きいただいで、多数の施設が参加しやすいようにしていただければと考えます。他の参加施設との距離が遠いと、どうしてもこちらの施設でのスタンプラリーへの参加者が減ってしまうと思われるので、

### 兵庫県立大学天文科学センター 西はりま天文台 石田 俊人

毎年お世話になっております。今年もありがとうございました。

白井が5月に更新したこともあり、夏休みの来客数は少し多めでした。全天映像を楽しんでいたお客さまもいらっしゃり、いつもの夏とは異なるお客さまを迎えました。

お客さまにとってスタンプラリーは近隣のプラネタリウムを巡る良い機会になったようです。

スタンプラリーの集計をしていただいたみなさま、本当にどうもありがとうございました。

### 白井市文化センター・プラネタリウム 長谷川好世

昨年より反応があり、特に常連のお客様からの反応があった。旅行を利用してスタンプを集めているお客様がいらした様子。

ドラえもん宇宙ふしぎ大探検2の投映期間中で、来館者数が例年よりも増えたこともあり、スタンプラリー参加者にもつながったと思われる。

### 盛岡市子ども科学館 三浦 圭裕

夏休み期間は特別展を開催しており、子どもとその保護者の施設全体の来館者数が増えて、スタンプラリー参加者増に繋がったといえる。

### 日立シビックセンター 鈴木雄大

スタンプラリーでは、興味深くスタンプを押していく方がいらっしゃり、少しずつ浸透している印象でした。

このような事業を継続していくことで、多くの方にプラネタリウムやドーム映像がより親しまれ、「プラネタリウムを見に行く」のではなく「番組を見に行く」という意識の高揚につながり、科学文化の発展に寄与するものと期待しています。

### 藤沢市湘南台文化センターこども館 佐野真由美

今年は9月19日(土)~23日(水)とシルバーウィークもあり、昨年と比較して会期中の来館者数が増加し、ドームシアター(プラネタリウム)鑑賞者数も増加した。

### りくべつ宇宙地球科学館 (愛称：銀河の森天文台) 中島 克仁

国立科学博物館では、例年通り、360度全方位に映像が映し出される映像シアター「THEATER 360

(シアター・サン・ロク・マル)」の出口付近にスタンプラリー台を設置し、シアターをご覧になった方を対象に配布いたしました。他館で先にスタンプを押した台紙をお持ちになっていたお客様も見受けられまして、スタンプラリーの効果を感じました。今年度もありがとうございました。

### 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 佐々木とき子

開催期間：2015年8月1日(土)~9月30日(木) 61日間

参加施設：日本国内の科学館・プラネタリウム館:シアターなど、44施設

### 概要

- ・スタンプラリー参加施設の登録スタンプを、3館押しして応募すると抽選で記念品を贈呈する。
- ・スタンプラリー用紙は、事務局で印刷の上、希望館には全国プラネタリウム大会会場で配布、または着払いで参加施設に送付した。
- ・記念品は、当選者の宛先シールにて、提供各団体から発送した。

### 集計

#### <年齢別>

| 年齢    | 人数  |
|-------|-----|
| 10歳未満 | 109 |
| 10代   | 56  |
| 20代   | 30  |
| 30代   | 50  |
| 40代   | 89  |
| 50代   | 38  |
| 60代   | 26  |
| 70代   | 14  |
| 80歳以上 | 10  |
| 合計    | 422 |

#### <都道府県別>

| 都道府県 | 人数  |
|------|-----|
| 青森県  | 1   |
| 岩手県  | 10  |
| 福島県  | 14  |
| 茨城県  | 13  |
| 栃木県  | 3   |
| 群馬県  | 2   |
| 埼玉県  | 41  |
| 千葉県  | 87  |
| 東京都  | 141 |
| 神奈川県 | 61  |
| 福井県  | 1   |
| 山梨県  | 1   |
| 岐阜県  | 1   |
| 三重県  | 2   |
| 滋賀県  | 3   |
| 京都府  | 1   |
| 大阪府  | 5   |
| 兵庫県  | 14  |
| 広島県  | 8   |
| 徳島県  | 1   |
| 香川県  | 6   |
| 沖縄県  | 6   |
| 合計   | 422 |

### 参加施設

りくべつ宇宙地球科学館（銀河の森天文台）  
 釧路市こども遊学館  
 盛岡市子ども科学館プラネタリウム室  
 仙台市天文台  
 郡山市ふれあい科学館宇宙劇場  
 高崎市少年科学館プラネタリウム  
 つくばエキスポセンター  
 日立シビックセンター天球劇場  
 中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）  
 日本科学未来館、プラネタリアム銀河座  
 葛飾区郷土と天文の博物館  
 国立科学博物館シアター36〇  
 株式会社アイカム・ドーム室  
 コニカミノルタプラネタリウム“満天” in Sunshine City  
 コニカミノルタプラネタリウム“天空” in 東京スカイツリータウン  
 府中市郷土の森博物館  
 多摩六都科学館  
 コニカミノルタサイエンスドーム(八王子市こども科学館)  
 東大和市立郷土博物館  
 相模原市立博物館  
 国立天文台 4D2U ドームシアター  
 千葉市科学館  
 はまぎんこども宇宙科学館宇宙劇場  
 平塚市博物館  
 藤沢市湘南台文化センターこども館  
 白井市文化センター・プラネタリウム  
 船橋市総合教育センタープラネタリウム館  
 さいたま市青少年宇宙科学館  
 さいたま市宇宙劇場  
 ディスカバリーパーク焼津天文科学館プラネタリウム  
 山梨県立科学館  
 ラフォーレ琵琶湖デジタルスタードームほたる  
 大阪科学技術館  
 堺市教育文化センターソフィア・堺プラネタリウム  
 バンドー神戸青少年科学館  
 兵庫県立大学天文科学センター西はりま天文台  
 姫路科学館プラネタリウム  
 広島市こども文化科学館  
 島根県立三瓶自然館サヒメル  
 さぬきこどもの国スペースシアター  
 あすたむらんど徳島子ども科学館プラネタリウム  
 石垣島天文台「星空学びの部屋」  
 沖縄科学技術大学院大学

# スタンプラリー：参加者の感想

## 記念品

提供: **株式会社ピクセン**

- ・天体望遠鏡ミニポルタ A70Lf 1台
- ・ピクセン・宙ガール星座早見盤 20枚

提供: **株式会社セガトイズ**

- ・ホームスタークラシック (パールホワイト) 2個
- ・ホームスタークラシック (メタリックネイビー) 2個

提供: **(同)スターライトスタジオ**

- ・スターライトスタジオオリジナルデザイン「重力」Tシャツ 1枚

提供: **(有)KAGAYA スタジオ**

- ・パズランタン ジオアース 2個
- ・パズランタン ザムーン 2個
- ・パズランタン ソディアック 2個
- ・スターライトパズル-シルバームーン  
-光る回転型月球儀パズル 1個
- ・スターライトパズル-ブルーアース  
-光る回転型地球儀パズル 1個

提供: **株式会社渡辺教具製作所**

- ・KAGUYA 月面図 3枚

提供: **有限会社ライブ**

- ・「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」ブルーレイ 1本
- ・「Eternal Return いのちを継ぐもの」DVD とパンフレット 1セット
- ・「HAYABUSA2-RETURN TO THE UNIVERSE」DVD 1本
- ・「HAYABUSA2-RETURN TO THE UNIVERSE」クリアファイル4枚セット 3組

提供: **有限会社八重泉酒造**

- ・琉球泡盛「群か星」 10本

提供: **有限会社宮城菓子店**

- ・フィナンシエ(お菓子)「石垣島の南十字星」 10個

提供: **コニカミノルタプラネタリアム株式会社**

- ・コニカミノルタプラネタリアム“満天”特別鑑賞券+オリジナルクリアファイル 30名

提供: **郡山市ふれあい科学館**

- (公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)
- ・スペースパークオリジナルグッズ詰め合わせ 20名

提供: **千葉市科学館**

- ・千葉市科学館オリジナル番組「チャレンジ!アストロQ」キャラクター「ながればしくん」マスコット人形 10個

提供: **株式会社アイカム**

- ・アイカム DVD&Book セット「iPS 細胞ってなんだろう」他 30名

提供: **国立科学博物館**

- ・国立科学博物館常設展招待券 (2枚一組) 50組

提供: **自然科学研究機構 国立天文台**

- ・TMT 望遠鏡デザインコースター(2枚一組) 30組

提供: **沖縄科学技術大学院大学**

- ・OIST ロゴ入りボールペン 50本

提供: **株式会社五藤光学研究所**

- ・社名ロゴ入り3色ボールペン 20本

提供: **プラネタリアム銀河座**

- ・銀河座エレガントボールペン 50本

国際科学映像祭 8.11(土) 9.30(木) http://image.ac-fest.net

**スタンプラリー-記念品**

※本スタンプラリーは、参加者全員に、各科学館・博物館・天文台・プラネタリアム・アイカム・ライブから、記念品をプレゼントいたします。参加者全員に、各科学館・博物館・天文台・プラネタリアム・アイカム・ライブから、記念品をプレゼントいたします。

**スタンプラリー-会場一覧**

| 会場名         | 住所                | 電話番号         | スタンプラリー会場 |
|-------------|-------------------|--------------|-----------|
| 国立科学博物館     | 東京都千代田区千代田1-16-1  | 03-3542-3542 | ○         |
| 国立天文台       | 東京都小平市上水1-1-1     | 042-525-2111 | ○         |
| 千葉市科学館      | 千葉県千葉市中央区新大塚1-1-1 | 043-222-2111 | ○         |
| 郡山市ふれあい科学館  | 福島県郡山市南大町1-1-1    | 024-222-2111 | ○         |
| 沖繩科学技術大学院大学 | 沖縄県那覇市首里          | 098-932-2111 | ○         |
| 五藤光学研究所     | 東京都中央区新大塚1-1-1    | 03-3542-3542 | ○         |
| プラネタリアム銀河座  | 東京都中央区新大塚1-1-1    | 03-3542-3542 | ○         |

お名前: \_\_\_\_\_ 性別: \_\_\_\_\_ 学年: \_\_\_\_\_ 学年番号: \_\_\_\_\_ 電話番号: \_\_\_\_\_

住所: \_\_\_\_\_

〒 \_\_\_\_\_

スタンプラリー会場



- ▶週末毎に親子三人でプラネタリウムを巡り、とても楽しい思い出が出来ました。(東京都・30代・女)
- ▶天体が大好きです!! (茨城県・10歳未満・男)
- ▶星が大好きです!! (茨城県・10歳未満・男)
- ▶ステキでした。(東京都・40代・女)
- ▶かがくスキー (神奈川県・10歳未満・男)
- ▶3つ集めるのはたいへんでした。(千葉県・10代・男)
- ▶星、好きになっています! (神奈川県・30代・男)
- ▶きれいでした。(東京都・10歳未満・女)
- ▶家族で出かけ、夏休みの良い思い出になりました。(東京都・10代・男)
- ▶プラネタリウムがとてもきれいで楽しかった。(東京都・10代・男)
- ▶星がとてもきれいでした。(東京都・40代・女)
- ▶とてもきれいでした。(東京都・40代・男)
- ▶どせいのわかかをぼうえんきょうでみたいです。(東京都・10歳未満・女)
- ▶娘と回れて楽しかったです。まだ7才ながら、全ての施設で何かしら楽しめていたのが印象的でした。(東京都・40代・女)
- ▶いつもプラネタリウムが好きで、親子で行ってます。(埼玉県・10歳未満・女/母代筆)
- ▶親が「宇宙兄弟」のマンガを読み、油井宇宙飛行士、ISS ドッキングをキッカケに夏休みはプラネタリウムへ行きました。子供も興味を持ち、ミニカー遊びから、ロケットや人工衛星遊びに変わり、子供の世界が広がりました。(埼玉県・10歳未満・男/父代筆)
- ▶はく物館は楽しかった。(東京都・10代・女)
- ▶この夏休みは、大好きなプラネタリウムを沢山みました。(埼玉県・10歳未満・女/母が代筆)
- ▶ほしにきょうみをもちました。いろいろなほしが見れてよかったです。(埼玉県・10歳未満・女)
- ▶国立科学博物館の THEATEAR36〇がはく力があってよかったです。リニューアルされた館内もよかったです。(東京都・10歳未満・男)
- ▶毎晩、家から星空を見ると、プラネタリウムに行くのに、夫婦ですっかりはまっています。この年になって、こんなにもワクワクすることに出会えて幸せです。今後も夢のある作品を期待しています。スタンプラリー初参加ですが、毎年やっているのでしょうか? (東京都・60代・女)
- ▶7歳の男児、子供は恐竜、動物、地球のこと、そして、最近では宇宙に興味を持ちはじめ、星をみるのも大好きです。家の近所の多摩六都科学館ではパスポートで通っています。(東京都・40代・女)
- ▶他に、「満天」サンシャインで恐竜とプラネタリウムをみました。夏休み、星にくわしくなりました。(東京都・10歳未満・男)
- ▶プラネタリウム良かったです。(東京都・10代・男)
- ▶プラネタリウムが大好きになりました。(東京都・10歳未満・男)
- ▶この機会で色々なプラネタリウム施設に行けて、色々な映像を見ることが出来て楽しかったです。(神奈川県・40代・女)
- ▶3回続けてプラネタリウムがみれたので星のことがもっともっとわかりました。(神奈川県・10歳未満・女)
- ▶プラネタリウムを続けてみたことで夏の星座に大きく関心をもちました。(神奈川県・30代・男)
- ▶第6回にして初めて知った企画、上京の際、行った2カ所は初めてで、とてもよかったです。(徳島県・30代・男)
- ▶いろいろな場所でプラネタリウムを鑑賞しました。またの機会も楽しみにしています。(東京都・40代・女)
- ▶プラネタリウムの夜空にういている感じが好きです。(広島県・50代・女)
- ▶夏休みの思い出になりました。本当にありがとうございました!! (東京都・10代・女)
- ▶新聞に「星の物語」が毎日掲載されているので興味を持って読んでいました。孫にプラネタリウム誘われて行きました。そこへスタンプラリーが舞い込んできました。良い体験が出来ました。星に興味が増え湧いてきました。(東京都・70代・女)
- ▶綺麗なだけではない、科学的な考察に基づいた映像作品が普及することを期待します。(東京都・30代・男)
- ▶家族で又、行きたいと思います。(東京都・40代・男)
- ▶本当に素敵な企画でした。プラネタリウムや科学博物館が大好きなので、この機会に多くの施設に足を運ぶことができました♡ ありがとうございました。また、このような機会に恵まれること、心より期待しております。(京都府・20代・女)
- ▶たのしかったです。(神奈川県・10歳未満・女)
- ▶銀河鉄道の夜、キレイだった!「シアター360」すごく楽しい!! (東京都・10歳未満・男)
- ▶「銀河鉄道の夜」泣きました。「シアター360」とっても興味深いです。(東京都・30代・女)
- ▶このスタンプラリーのおかげでお友達とスカイツリータウンに行けました。(東京都・30代・女)
- ▶〇石垣島天文台の4D2Uの映像が素晴らしかったです。200インチスクリーンでの立体的な宇宙は圧巻です!! (埼玉県・10歳未満・女・親が代筆)
- ▶いえでも星のかんさつがしたいです。3Dのプラネタリウムをおもしろかったです。(神奈川県・10代・男)
- ▶本当はプラネタとかではなく、本物の満天の星座にあこがれます。みたいなあ。(東京都・10代・女)
- ▶プラネタリウムを見るのは大好きです。それぞれが特徴があり、とても楽しかったです。(埼玉県・40代・女)
- ▶3カ所まわるのに苦労しましたが、施設による違いがわかって面白かったです。(千葉県・30代・女)
- ▶子どもから大人まで楽しめる演出がありとてもおもしろかったです。(東京都・10歳未満・女)
- ▶未来館、ビックリでした。星がつかめそうでした!! (東京都・30代・女)
- ▶未来館のドームシアター、3Dでびっくりしました。(東京都・10歳未満・男)

## スタンプラリー：参加者の感想

- ▶科学博物館の360度の映像はすごかったです。自分がとんでいるような感じがしました。また、天空も映像がきれいで香りとの効果もすばらしかった。いろいろな手法があり、とてもたのしめました。  
(東京都・30代・男)
- ▶孫の興味が広がって嬉しかった、もっとやって欲しいと思った。  
(東京都・60代・男)
- ▶4歳の娘と宇宙ステーションを3日連続で見たり、プラネタリウム巡りをするのが楽しい夏でした。娘にも星が大好きになってほしいです。  
(神奈川県・40代・女)
- ▶ほしがきれいでした。  
(香川県・10歳未満・女)
- ▶ほしがだいすきです  
(神奈川県・10歳未満・女)
- ▶子どもとプラネタリウムに通うようになり、4年が経ちますが、どんどん星・星座・宇宙の世界に魅了されています。  
(千葉県・40代・女)
- ▶プラネタリウムに行って、星座や宇宙のことがよくわかってとてもうれしいです。星座や星の名前がとてもわかりました。  
(千葉県・10歳未満・男)
- ▶久びさのプラネタリウムでしたが、映像がものすごくきれいでした。表現も豊かで参加してよかったです。  
(岐阜県・50代・女)
- ▶星が大好きな4才の娘と天体観測してみたいです!  
(神奈川県・40代・男)
- ▶4D2U良かったです。様々な星座が見れました。さいたままで見ようとしたのですが、無く残念・・・石垣で見れて良かった。また見たいです!!  
(沖縄県・20代・男)
- ▶宇宙兄弟に出会ってから星や宇宙に関心を持ち、昨年秋頃からプラネタリウムへ通っています。また、今年は上野に「ヒカリ展」にも行ってきました。この1年間は宇宙について初めて知ったことばかりだったのでますます興味深くなりました。  
(群馬県・20代・女)
- ▶プラネタリウムは親子で楽しんでいます。  
(埼玉県・30代・女)
- ▶初めてのプラネタリウム、星、星座に興味をもついきかになりました。東京では星が見えないのでプラネタリウムを家でも見れるとうれしいです。  
(東京都・10歳未満・男)
- ▶久しぶりにプラネタリウムを鑑賞し、この機会に行ったことのない科学館にも出かけることができ、また、いろいろなドッキリに出会えました。ありがとうございました。  
(滋賀県・50代・女)
- ▶科学館プラネタリウム大好きです。家族3人で回りました。  
(東京都・30代・男)
- ▶プラネタリウムで教わり、子どもたちが夜空を見て、星の名前を言えるようになってきました。  
(埼玉県・40代・女)
- ▶プラネタリウムが好きで、よく足を運びます。中でも、最近のお気に入り科博のシアター360!! みんなにオススメしています。学校の教員をしているので、子どもたちに様々なプラネタリウムをオススメできるよう、まだ行ったことのない所へもどんどん足を運んでいきたいと思えます。スタンプラリーという楽しいイベントを企画してくださり、ありがとうございました。  
(神奈川県・20代・女)
- ▶宇宙大好き☆  
(千葉県・10代・男)
- ▶きりん座が好きです。  
(神奈川県・10歳未満・女)
- ▶いつか宇宙を・・・見たい!!  
(千葉県・10代・女)
- ▶夏休みに初めて未来館へ行きました。子供だけでなく、大人もとても楽しめました。  
(埼玉県・40代・女)
- ▶今年の夏は、家族で宇宙を感じる機会をたくさんもつ事ができました。いろいろな科学館へこれからも数多く出かけていきたいです。  
(神奈川県・10歳未満・男)
- ▶今夏はプラネタリウムに5回も行き、星座が大好きになりました。家の周りでは街灯が明るすぎて星があまり見えないのが難点です。  
(神奈川県・10歳未満・女)
- ▶それぞれが美しい映像でした。アイカムドーム室の日程が合わず残念。  
(東京都・30代・女)
- ▶科学技術館にも行ったのに、スタンプラリーに参加していませんでした・・・でもこの機会に星空への関心がとても高まりました。ありがとうございました。  
(東京都・40代・女)
- ▶わたしはたんじょう日の星ぎのアンタレスのお話をよんだりするのがすきで、わたしはアンタレスの星をなまで見たいのでおうぼしました。  
(兵庫県・10歳未満・女)
- ▶小学4年の女の子の父親です。母親と暇があれば、西はりま天文台に行っては星座を楽しんでいるようです。今度は家族3人で星空を楽しみたいと思い応募しました。  
(兵庫県・40代・男)
- ▶4D2Uシアターは参加条件が小学生以上のため、留守番でしたが、兄に泣く泣くスタンプを頼みました。  
(東京都・10歳未満・男)
- ▶娘と供にとっても楽しくスタンプラリーが出来ました。興味がわいてきた感じです。  
(埼玉県・40代・女)
- ▶夏の星座、冬の星座、ちょうど勉強にでてくる頃で、スタンプラリーをきっかけにプラネタリウムをたくさん見ることができたのはとても良かったです。  
(東京都・10代・男)
- ▶国立天文台が近いことは知っていましたが、一般への公開がひんぱんに行われていることは初めて知りました。テーマが変わるごとに行ってみたいです。  
(東京都・10歳未満・男)
- ▶初めまして小4の女の子の母親です。小3の頃から子どもと2人で西はりま天文台や姫路科学館で星座を楽しんできました。最近自分の星座に興味が出てきて、星座の本をよく見えています。子どもの誕生日も近く、秋の夜空を楽しめたらと思って応募しました。  
(兵庫県・40代・女)
- ▶いろんな科学館に行ってプラネタリウムに行って楽しかったです。  
(大阪府・10歳未満・男)
- ▶夏休みを利用して、あちらこちら周れて楽しかったです。  
(神奈川県・40代・女)
- ▶たくさん星が見られて楽しかったです。  
(神奈川県・10代・男)
- ▶この夏、色んなプラネタリウムを見ることができ、とても嬉しかったです。私も大学で科学史を学び学芸員の資格を取得して“星のお姉さん”になりたいです。  
(茨城県・10代・女)
- ▶この企画のおかげで家族とプラネタリウムめぐりを初めてして、とても楽しかったです。  
(大阪府・30代・男)

開催日：2015年8月3日(月)

開催場所：なかのZEROプラネタリウム

### 開催趣旨

今年の国際科学映像祭りのキックオフイベントは、セレモニー的な内容は最小限とし、ドーム映像や関連する技術に関する半日のワークショップを JPA-デジタルプラネタリウムワーキンググループの協力のもと、第19回デジタルプラネタリウムワークショップとして開催しました。科学映像を可視化して見せるフィールドとしてドーム（プラネタリウム）は最適で最も期待の持てる場所かも知れませんが、最後の砦なのかも知れません。

2015年の時点で「技術はここまで進み、世界のクリエイターはこのような事を考えている」ということを概観するにはやや議論の時間が不足していたかも知れませんが、何かを感じ考えるきっかけにはなったのではないかと思います。

### 主催

第6回国際科学映像祭実行委員会

### 共催

JPA デジタルプラネタリウムワーキンググループ

### 参加費

¥100円

### 参加者数

68名



### プログラム

セッション1 技術～コンテンツ分野

- a ハードウェア 4kTV との関連 (NHK エンジニアリングシステム: 金澤勝)
- b ソフトウェア (オリハルムテクノロジーズ: 高幣俊之)
- c コンテンツ (スターライトスタジオ: 広橋勝)
- e シミュレーション・可視化 (国立天文台: 加藤恒彦)
- d オーロラの実写 (科学技術館: 糸屋寛)

セッション2 関連応用分野

- g アーカイブへの応用 (凸版印刷: 坂田雅章)
- h サブカルの世界への進展 (国立天文台: 三上真世)
- i フュージョンへの応用 (大平技研: 石井智晃)
- j プラネタリウムは昔からツールとしてイマーシブメディアを使い続けてきた (平塚市博物館: 鳥宏道)

セッション3

議論とまとめ

(DPWS 世話人、株式会社リブラ: 田部一志)

### 集録

別途、集録を作成予定



# キックオフイベント：開催概要





# ドームフェスタ：開催概要

開催期間：2015年9月23日（水）～26日（土） 4日間

開催会場：郡山市ふれあい科学館

〒963-8002 福島県郡山市駅前二丁目11番1号(ビッグアイ 20～24階)

## 開催趣旨

最近では、デジタルドーム映像の表現力や画質などが格段に向上しています。ドームフェスタでは、国内外のドーム映像作品及び科学映像作品の上映、海外からの招待講演、ショートプログラムコンテスト、関連企業ブース展示を行いました。



## 主催

第6回国際科学映像祭実行委員会、  
郡山市、郡山市教育委員会、  
郡山市ふれあい科学館（公益財団法人郡山市文化・学び振興公社）

## 後援

郡山コンベンションビューロー、福島民報社、福島民友新聞社、朝日新聞福島総局、毎日新聞福島支局、読売新聞東京本社福島支局、産経新聞福島支局、NHK 福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、株式会社郡山コミュニティ放送コロラジ

## 参加費

事前申込

1日券： ¥1,000  
4日通し券： ¥3,000

当日券：

一般：¥400、高校・大学生等：¥200、小・中学生：¥200  
幼児・65歳以上：¥100

## 参加者数

事前申込（1日券、通し券）  
及び当日チケット販売（セッションごと）で集計



| 日付  | 内容             | 参加者数 | うち事前申込人数 |
|-----|----------------|------|----------|
| 23日 | 開会行事～Lars氏招待講演 | 127名 | 64名      |
| 24日 | S Pおよびセッション1   | 146名 | 109名     |
|     | セッション2         | 155名 |          |
|     | セッション3         | 136名 |          |
| 25日 | セッション4         | 126名 | 109名     |
|     | セッション5         | 137名 |          |
|     | セッション6         | 123名 |          |
|     | セッション7         | 126名 |          |
| 26日 | イエナ～閉会行事       | 174名 | 96名      |

※25日バンケット参加者数：95名

※26日エクスカージョン参加者数：38名



# ドームフェスタ：開催概要

## 作品上映

23F 宇宙劇場にて作品上映を行いました。上映作品には、世界各地から合計38作品ものエントリーがありました。くわしくは P17-22 をご覧ください。

## ショートプログラムコンテスト

平面映像、ドーム映像合わせて9作品の応募作品の中から、優秀な科学映像作品を表彰しました。くわしくは p23 をご覧ください。

## IYL 特別セッション

国際光年 2015 を記念して、光害について考える特別セッションを開催しました。くわしくは、p24-25 をご覧ください

## 企業ブース展示

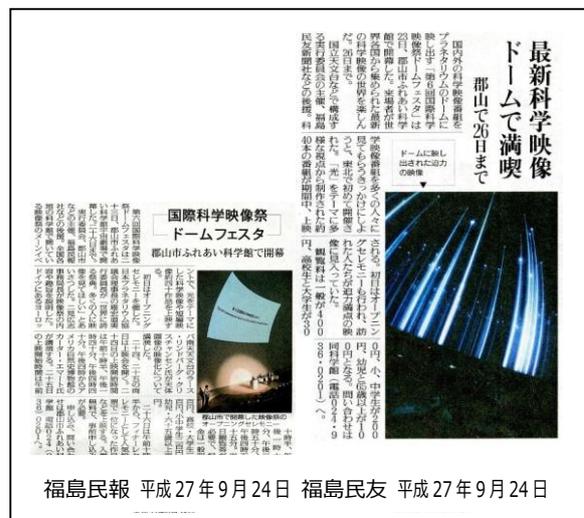
9月24日(木)～25日(金)に、23F 宇宙劇場ホワイエにて、関連企業/団体によるブース展示を行いました。くわしくは P20 をご覧ください。

## 特別招待講演

海外から講演者を招き、講演会を開きました。詳しくは P27-37 をご覧ください

## メディアの取材

以下の2紙にとりあげていただきました。





# ドームフェスタ：タイムテーブル／ブース展示

## タイムテーブル

September 23 (Wed.)

【Location: プラネタリウム / Planetarium Theater】

| 開会式 / Opening Ceremony |       |   |  |
|------------------------|-------|---|--|
| 16:00 - 16:30          | 開会行事  |   |  |
| 16:30 - 17:30          | IYL-1 | 国際光年特別セッション（ ” Losing the Dark” 上映とトーク） |  |

| ドームフェスタ作品上映 [トレーラー] / Dome Feature Shows [Trailer] |     |   |      |  |
|--|-----|---|------|--|
| 17:30 - 17:37                                      | T   | トレーラー1分プレゼンテーション / One Minute Presentations           |      |  |
| 17:37 - 17:44                                      | T-1 | フルドーム版「宇宙図」 / Diagram of Our Universe                 | 2015 |  |
| 17:44 - 17:46                                      | T-2 | 星々の約束 / A hidden story in the star chart              | 2016 |  |
| 17:46 - 17:48                                      | T-3 | 福井の大地は語る (仮) / Geological history of Fukui(temporary) | 2016 |  |
| 17:48 - 17:53                                      | T-4 | Aurora (仮) / Aurora (Temporary title only)            | 2015 |  |
| 17:53 - 17:58                                      | T-5 | 眠れない夜の月 / Moon of a Sleepless Night                   | 2015 |  |
| 17:58 - 18:00                                      | T-6 | We Are STARS (仮) / We Are STARS (temporary)           | 2015 |  |

|               |            |  |  |  |
|---------------|------------|--|--|--|
| 18:00 - 18:10 | 休憩 / Break |  |  |  |
|---------------|------------|--|--|--|

| 特別講演 1 / Keynote Speeches guests 1 |      |   |      |  |
|------------------------------------|------|---|------|--|
| 18:10 - 19:30                      | SP-1 | Lars Lindberg Christensen 氏講演 ”Journey to the Centre of the Milky Way”<br>”From Earth to the Universe”(30 min.) | 2014 |  |

September 24 (Thu.)

【Location: プラネタリウム / Planetarium Theater】

| ショートプログラムコンテスト作品上映 / Screenings of entry films submitted to the Short Film Contest |                 |   |  |                       |
|--|-----------------|---|--|-----------------------|
| 10:30-   | あいさつ、概要説明、審査員紹介 |   |  |                       |
| 10:35-   | SF-1            | Erg Chebbi  |  | ( 平面作品 / flatscreen ) |
| 10:42-   | SF-2            | RAYDOF  |  | ( 平面作品 / flatscreen ) |
| 10:45-   | SF-3            | color+ful ～惑星編～   |  | ( 平面作品 / flatscreen ) |
| 10:51-   | SF-4            | Reboot  |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |
| 10:55-   | SF-5            | 光あやなす宇宙 / A Variety of Lights from the Universe                 |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |
| 11:01-   | SF-6            | Groningen fly over  |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |
| 11:05-   | SF-7            | INFINITE HORIZONS   |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |
| 11:09-   | SF-8            | 「軍艦島 球景 - Light and Shadow - /Gunkanjima360- Light and Shadow - |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |
| 11:16-   | SF-9            | ”Life under the Arctic Sky” teaser                              |  | ( 全天周作品 / fulldome )  |

※各作品間に審査員記入時間約2分を含みます。



## ドームフェスタ：タイムテーブル／ブース展示

September 24 (Thu.)

【Location: プラネタリウム / Planetarium Theater】

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |      |  |      |   |
|----------------------------------|------|--|------|---|
| 11:25 -<br>11:40                 | S1-1 | FEBRUAR (14 min.)  | 2015 |  |
| 11:40 -<br>12:09                 | S1-2 | Habitat Earth (24.5 min.)  | 2014 |  |
| 12:09 -<br>12:38                 | S1-3 | Solar Superstorms (23.5min.)   | 2014 |  |
| 12:38 -<br>12:50                 | S1-4 | Kisah dan Legenda Bintang di Nusantara Indonesia /<br>Star tale and Star lore in Indonesian Archipelago (7 min.) | 2014 |  |

|                  |             |  |  |  |
|------------------|-------------|--|--|--|
| 12:50 -<br>13:40 | 昼休憩 / Lunch |  |  |  |
|------------------|-------------|--|--|--|

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |      |   |      |   |
|----------------------------------|------|---|------|---|
| 13:40 -<br>14:10                 | S2-1 | アインシュタインが明かした重力の秘密 /<br>Einstein and the Secret of Gravity (25 min.)                  | 2015 |    |
| 14:10 -<br>14:45                 | S2-2 | TRUE LOVE ～いつか見た星とともに～ (30 min.)  | 2015 |   |
| 14:45 -<br>15:16                 | S2-3 | オーロラの調べ -神秘の光を探る- /<br>Melody of Aurora - Search for Mysterious Light - (26 min.)     | 2015 |  |
| 15:16 -<br>15:49                 | S2-4 | Eternal Return-いのちを継ぐもの- (モノログ追加版) /<br>「Eternal Return : Inherit the life」 (28 min.) | 2015 |  |

|                  |            |  |  |  |
|------------------|------------|--|--|--|
| 15:50 -<br>16:00 | 休憩 / Break |  |  |  |
|------------------|------------|--|--|--|

| 特別講演 2 / Keynote Speeches guests 2 |   |  |  |   |
|------------------------------------|---|--|--|---|
| 16:00 -<br>16:40                   | Dr. Carter Emmart(American Museum of Natural History) / OpenSpace |  |  |  |

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |      |   |      |   |
|----------------------------------|------|---|------|---|
| 16:40 -<br>17:07                 | S3-1 | 小さな世界はワンダーランド/ Tiny Giants (22 min.)        | 2015 |  |
| 17:07 -<br>17:37                 | S3-2 | アインシュタイン・エクスプレス/ Einstein Express (25 min.) | 2015 |  |
| 17:37 -<br>18:01                 | S3-3 | 天の川をさぐる(19 min.)                            | 2015 |  |
| 18:01 -<br>18:36                 | S3-4 | The girl who walked upside down (30 min.)   | 2013 |  |

【Location: 郡山ビューホテルアネックス / KORIYAMA VIEW HOTEL ANNEX】

| バンケット / Dome Festa Banquet |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 19:00 -<br>21:00           | バンケット / Dome Festa Banquet |



## ドームフェスタ：タイムテーブル／ブース展示

September 25 (Fri.)

【Location: プラネタリウム / Planetarium Theater】

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |             |   |      |  |
|----------------------------------|-------------|---|------|--|
| 10:30 -<br>11:05                 | S4-1        | 天の川 アイランド・ヒーリング (30 min.)                 | 2015 |  |
| 11:05 -<br>11:35                 | S4-2        | 恐竜の記憶 /Remains of the Dinosaurs (25 min.) | 2015 |  |
| 11:35 -<br>12:10                 | S4-3        | さくらさくら～木の花舞う桜島と星と～ (25min.)               | 2015 |  |
| 12:10 -<br>13:10                 | 昼休憩 / Lunch |   |      |  |

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |            |  |      |  |
|----------------------------------|------------|--|------|--|
| 13:10 -<br>13:40                 | S5-1       | スターオーシャン／Star Ocean (25 min.)  | 2014 |  |
| 13:40 -<br>14:10                 | S5-2       | コズミックフロント～ファーストスター誕生～／<br>COSMIC FRONT-Birth of the first stars- (25 min.) | 2015 |  |
| 14:10 -<br>14:40                 | S5-3       | きみが住む星 (25min.)  | 2015 |  |
| 14:40 -<br>14:50                 | 休憩 / Break |  |      |  |

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |            |  |      |  |
|----------------------------------|------------|--|------|--|
| 14:50 -<br>15:20                 | S6-1       | 名探偵コナン～探偵たちの星月夜～／<br>DETECTIVE CONAN ～Detective's Starry Night～(25 min.) | 2015 |  |
| 15:20 -<br>15:51                 | S6-2       | くまモンのほしぞらおもちゃばこ (26 min.)  | 2014 |  |
| 15:51 -<br>16:08                 | S6-3       | ほしみるおじさん -みぢかなうちゅうのおはなし- /<br>A Farmer's Day in The Universe (12 min.)   | 2015 |  |
| 16:08 -<br>16:42                 | S6-4       | Polaris (29 min.)  | 2015 |  |
| 16:45 -<br>16:55                 | 休憩 / Break |  |      |  |

| ドームフェスタ作品上映 / Dome Feature Shows |      |   |      |  |
|----------------------------------|------|---|------|--|
| 16:55 -<br>17:29                 | S7-1 | 星に願いを、月に祈りを(29 min.)  | 2014 |  |
| 17:29 -<br>18:12                 | S7-2 | 楽しい星座さがし～絵本作家 H.A.レイの世界～／<br>Canvas of Stars: The Astronomical World of H.A. Rey (38 min.)                          | 2013 |  |
| 18:12 -<br>18:47                 | S7-3 | キズナノホシ (パブリッシュ版) /KIZUNA (30 min.)  | 2014 |  |
| 18:50 -<br>19:16                 | S7-4 | Pedro Rosso 氏講演 & 上映 (平面作品/flatscreen)<br>Rosetta: the ambition to turn science fiction into science fact ( 7 min.) | 2015 |  |



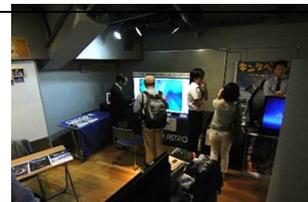
## ドームフェスタ：タイムテーブル／ブース展示

September 26 (Sat.)

【Location: プラネタリウム / Planetarium Theater】

| イェナフルドームフェスティバル受賞作品上映 / Awards of Fulldome Festival in Jena |     |  |      |  |
|---|-----|--|------|--|
| 10:30 - 10:45   | C-1 | 残像花 / The Flower of Afterimage (10 min.) | 2015 |  |
| 10:45 - 11:05   | C-2 | Fermentation (15 min.)                   | 2014 |  |

| 閉会式 / Closing |   |
|---------------|---|
| 11:05 - 12:30 | 人気投票結果発表・表彰式 / Award Ceremony<br>ショートプログラムコンテスト表彰式 / A short film contest commendation ceremony<br>閉会 / Closing |



## ブース展示

| ブース展示 / Exhibition booth area by co-sponsors  |   |
|---|---|
| アストロデザイン株式会社<br>ASTRODESIGN Inc.,<br><a href="https://www.astrodesign.co.jp/">https://www.astrodesign.co.jp/</a>  | 4K 超高精細映像機器<br>4K UHD TV Video Equipment            |
| エクスプローラーズ・ジャパン株式会社<br>EXPLORERS JAPAN, Ltd<br><a href="http://www.expj.co.jp/">http://www.expj.co.jp/</a>   | 新作ドームコンテンツのご紹介<br>Introduction of Fulldome Contents |
| コニカミノルタプラネタリウム株式会社<br>Konica Minolta Planetarium Co., Ltd.<br><a href="http://www.konicaminolta.jp/planetarium/index.html">http://www.konicaminolta.jp/planetarium/index.html</a> | 制作番組・映像等のご紹介<br>Introduction of Fulldome Contents   |
| 合同会社スターライトスタジオ<br>STARLIGHT STUDIO, LLC<br><a href="http://www.starlightstudio.jp/">http://www.starlightstudio.jp/</a>  | 制作番組・映像等のご紹介<br>Introduction of Fulldome Contents   |
| 株式会社D & Dピクチャーズ<br>D&D Pictures, INC.<br><a href="http://www.d-dpictures.co.jp/">http://www.d-dpictures.co.jp/</a>  | 新作ドームコンテンツのご紹介<br>Introduction of Fulldome Contents |



# ドームフェスタ:ショートプログラムコンテスト

募集期間 : 2015年4月29日(水)~7月31日(金)  
応募作品数 : 9作品 (平面作品 : 3、ドーム作品 : 6)

## 開催趣旨

国際科学映像祭実行委員会では、良質な科学映像を作成するクリエイターの育成を目的とし、第2回国際科学映像祭より、毎年、科学映像作品のコンテストを実施してきました。5回目となる第6回国際科学映像祭では、科学映像作品のみならず、科学と親和性の高いアート作品まで範囲を広げて、フルドーム映像作品及び平面作品を募集しました。

## コンテストテーマ

光

## 本審査

2015年9月24日(火)、ドームフェスタ in Koriyama にて上映後、別室にて審査会を行いました。  
審査員の方には、技術力、科学性、芸術性、オリジナリティ、将来性の5項目に関して、それぞれ5点満点での採点を行って頂きました。

### [賞および賞品]

最優秀賞 1点 賞状・記念品  
フルドーム作品優秀賞 1点 賞状  
平面作品優秀賞 1点 賞状  
会場特別賞 1点 賞状

※審査員による審査とは別に、本コンテストの上映作品の中から、会場の皆様の投票による「会場特別賞」を1作品選びます。面白かった、興味を持ったなど、気に入った作品を一つ選んでご投票いただく「人気投票」になります。

### 審査員(敬称略)

Dr.Carter Emmart (American Museum of Natural History)  
Lars Lindberg Christensen (European Southern Observatory)  
寺園 淳也 (会津大学)  
内田 章 (国際アート&デザイン専門学校)  
縣 秀彦 (国立天文台)  
三上 真世 (国立天文台)  
伊東 昌市 (第6回国際科学映像祭事務局/国立天文台)  
広橋 勝 (第6回国際科学映像祭事務局 /スターライトスタジオ)



## 上映作品

### 平面作品

Erg Chebbi | 高橋 昂也  
RAYDOF | ひだか しんさく  
color+ful ~惑星編~ | 葛田成二



### フルドーム作品

Reboot | 黒井 心  
光あやなす宇宙 | 三浦 昭  
Groningen fly over | Robin Sip  
INFINITE HORIZONS | Diana Reichenbach  
「軍艦島 球景」-Light and Shadow - | 大西 悟  
"Life under the Arctic Sky" teaser | Robin Sip

## 審査結果

### 最優秀賞

#### "Groningen Fly Over"

監督 : Robin Sip

審査員コメント : これがすべてCGとは信じられない! 実写と見まがうようなディテールまで忠実に再現したCG技術力に高い評価。



### 優秀賞 : 平面部門

#### "Erg Chebbi"

監督 : 高橋 昂也

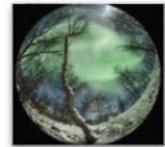
審査員コメント : 中東の絨毯をイメージするピクセルを使った画面構成の芸術性が評価された。

### 優秀賞 : ドーム部門

#### "Life under the Arctic Sky Teaser 予告編"

監督 : Robin Sip

審査員コメント : カメラワークの完璧さを評価する審査員が多かった。



### 審査員特別賞/会場特別賞(ダブル受賞)

#### "光あやなす宇宙"

監督 : 三浦 昭

審査員コメント : 応募作品の中でもっとも「光」というテーマを忠実に捉えた作品であること、誰にも馴染みのある星空解説の形を借りて、一般には知られていないX線や赤外線で見えた科学データを可視化するという番組のスタイル、科学成果のアウトリーチに真摯に取り組まれる制作姿勢が高く評価された。

## ドームフェスタ：上映作品人気投票結果

ドームフェスタ期間中に上映された全作品（トレーラー作品、参考出品を除く）を対象に、会場に参加された方々より「大変良かった」「良かった」「普通」の3段階で投票していただきました。その結果、上位に選ばれた作品は、以下の通りです。なお、各賞には、表彰状、さらに第1位に選ばれた作品は、記念のクリスタルトロフィーが贈られました。

### 第1位：オーロラの調べ -神秘の光を探る-



監督：KAGAYA

制作会社／団体：KAGAYA スタジオ

配給会社：株式会社五藤光学研究所・コニカミノルタプラネタリウム株式会社・株式会社リブラ

作品概要：ゆらめくカーテン、渦巻く光…。神秘的なオーロラに包まれる体験をしましょう。アイスランドやアラスカで撮影したさまざまなオーロラ映像のほか、オーロラが光るしくみをCGで解説します。北極圏で見える星空、氷河やツンドラに連なる山々の絶景。大自然とともにオーロラの魅力を満喫する作品です。

### 第2位：Habitat Earth

監督：Ryan Wyatt

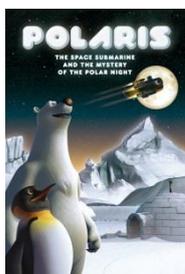
制作会社／団体：California Academy of Sciences

配給会社：-

作品概要：Experience a full-dome exploration of what it means to live in today's connected world, where biological networks intersect with those built by humans.



### 第3位：Polaris



監督：Eric Frappa

制作会社／団体：RSA Cosmos

配給会社：株式会社五藤光学研究所

作品概要：Polaris is a playful story combining pedagogy and astonishing 3D effects. Addressing astronomical concepts such as the tilt of the Earth's axis, planetary types and ice in the solar system, the show also introduces key elements of the scientific method.



企画：国際天文学連合 国際普及室、国立天文台

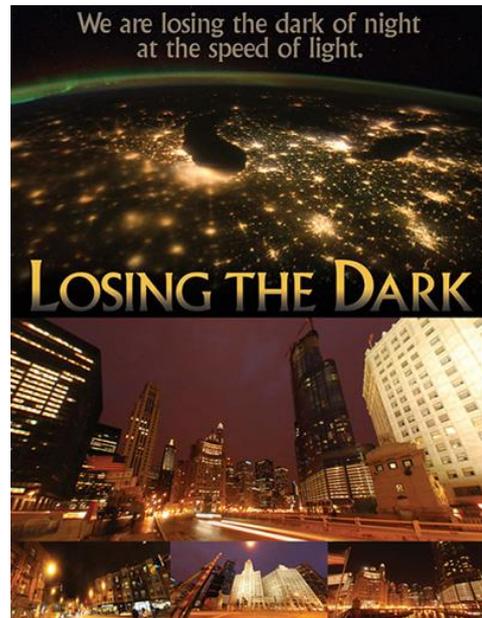
### 本物の星空を取り戻すために プラネタリウムができること

天文学は、“宇宙からの光”を捉えることで、さまざまな宇宙の謎を解き明かしてきました。しかし、私たち人類が多くの照明を使うことで、夜の暗闇は失われ、天体観測を難しくしています。天文学に限らず、美しい星空を見ることが出来る場所は急激に少なくなりました。過剰な光は、生態系に影響し、エネルギーの浪費へつながることも指摘され、光害の問題として認識され始めています。光害を減らし本物の星空を取り戻すためにプラネタリウムは何ができるでしょうか。

この特別セッションでは、光害啓発のために制作されたプラネタリウムショー『Losing the Dark』(ルーピング・ザ・ダーク)を紹介し、番組上映後のトークセッションでは、制作者のキャロリン・コリンズ・ピーターセンさんと原案者のコンスタンス・ウォーカーさんとインターネットでつなぎ、光害の教育活動をされている越智信彰さんを会場に招いて、光害を減らすアイデアをそれぞれの立場からお話いただきました。



### Losing the Dark



『Losing the Dark』は、国際ダークスカイ協会とロスネスプロダクションズ が制作し 2013 年 2 月に公開しました。光害による多方面への悪影響、たとえばエネルギーの浪費、生態系への影響、人体の健康への影響、交通の安全性の低下、星空の見え方への影響などが、美しい映像と共にわかり易く解説されています。最後に、この問題の解決に向けたシンプルな方法が示され、光害削減への取り組みを呼びかけています。



国際  
光年  
2015

# 宇宙からの光



## 国際光年 2015 『宇宙からの光』 特別セッション

## Losing the Dark

## トークセッション

【モデレーター】

**シーリユン・チャン Sze-leung Cheung**

国際天文学連合 国際普及室 (IAU OAO) インターナショナル・アウトリーチ・コーディネーター。国立天文台に拠点を置く IAU OAO は、天文普及に関する情報発信やさまざまな天文普及キャンペーンを行っています。2015 年は、国際光年 2015 『宇宙からの光』プログラムを実施中で、光害を減らし暗い夜空を守るためのさまざまな活動も行っています。



【スピーカー】

**キャロリン・コリンズ・ピーターセン****Carolyn Collins Petersen**

ロスネスプロダクションズ 監督/プロデューサー。  
『Losing the Dark』は光のスピードで夜空の暗さは失われているということを視聴者に訴えかけています。この番組を作るとき、私たちは、都市や自然環境など様々な環境での光害の問題を取り上げようと考えました。光害は地球上の様々な生物に影響を及ぼしますが、その影響を軽減するための簡単な方法があり、私たちはこの問題を解決することができます。番組はプラネタリウムや学校など世界中で上映されています。現在 17 の言語で視聴することができます。

**コンスタンス・ウォーカー Constance Walker**

アメリカ国立光学天文台/国際ダークスカイ協会役員。『Losing the Dark』は、他のプログラムと一緒に組み合わせて学校教育に使うことができます。市民参加型の、夜空の明るさ世界同時観察キャンペーン GLOBE at Night (グローブ・アット・ナイト)や「賢い照明の使い方」を教える教育キットなどを紹介しました。

**越智 信彰 Nobuaki Ochi**

東洋大学 准教授/国際ダークスカイ協会 東京支部代表。日本における光害の現状やそれが環境や生物へどのように影響しているのかをお話しました。また光害の問題を学校の環境教育においてどのように取り上げたらよいか紹介しました。





## 招待講演 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

### ラース・リンドバーグ・クリスチャンセン氏 Mr. Lars Lindberg Christensen

Science communication specialist heading the ESO education and Public Outreach Department

(ePOD) in Munich, Germany.

(ヨーロッパ南天天文台 (ESO) の教育・広報部門 (ePOD) で活躍する科学コミュニケーションのスペシャリスト)

“JOURNEY TO THE CENTRE OF THE MILKY WAY”  
Screened,

“JOURNEY TO THE CENTRE OF THE MILKY WAY”  
上映後

The small mini-show we just saw, “Journey to the Centre of the Milky Way,” is the first one that we have ever done. Actually, it is the first planetarium show that ESO has ever embarked on; and it is freely available to anyone who wants to download it.

The image that you saw at the very end was quite a challenge to produce. It was a very fun experience and an exciting project. The image ended up being 9 Giga-pixels in size and can print as 9 by 7 metres if you print it in full resolution. It is the second largest astronomical image ever made. While we were doing it, we hit about 10 different technical challenges which exploded anything we had in our inventory of hardware and software. It led to various problems getting the data processed, getting them into Photoshop; getting them out of Photoshop, etc. I won't go into the details.

Allow me to just, for those of you who don't know ESO, give you a quick refresher. ESO is a big inter-governmental astronomical organization. It is supported by 16 countries, including Brazil and the host state of Chile. The observatories on the ground and the ones in space are actually very complementary. The atmosphere, shown symbolically in brown on this slide, blocks certain wavelengths, especially in the hard ultraviolet and x-rays; in parts of the infrared; and out farther. On the ground you have these windows where the atmosphere allows the radiation, the light, to come through in the visible, parts of the infrared, the submillimetre, and the radio.

If we look briefly at the number of publications from the different telescopes on the ground and in space, ESO is quite prominent by being the most productive ground based observatory. It is shown here in orange. Sometimes ESO even out performs Hubble, which is the most productive space based observatory.

Why did ESO and Europe decide to go to Chile?



今ご覧になった映像【JOURNEY TO THE CENTRE OF THE MILKY WAY】は、ESO の最初のプラネタリウムショーです。これは、インターネットで誰でも自由にダウンロードすることができます。

この天の川の画像を作るのは本当に難しかったですが、面白かったです。作り終わった画像は 9 ギガピクセルなので、印刷すれば 9m×7m のポスターになります。こんなに多いデータを計算する事はとても難しかったです。作るためには 10 個の課題がありました。細かい説明はしませんが、この問題を解決したことは、本当に面白い経験になりました。

ESO は国際的な組織です。16 国が参加していて、ここには、ヨーロッパではありませんがブラジルも入っています。地球と宇宙の望遠鏡と一緒に観測することで、大きな違いは、地球での観測には大気が邪魔になります。波長によって大気は光を止まる。地球上では可視光と電波は綺麗に見ることができます。それ以外は基本的に、宇宙で観測しなければなりません。



地球上の天文台の中で、ESO は最も多い論文を発表しています。

何故 ESO はチリを選んだのでしょうか？それには 4 つの大切な理由があります。まず、チリは天気がとても良いです。

## Special Lecture 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

It's very simple. It's because Chile is one of the two very best places on the planet in terms of atmospheric conditions. There are over 300 clear nights a year. The political stability is guaranteed, more or less. And it's free from radio interference and light pollution. And then you have the Milky Way and the Magellanic Clouds very high overhead. It's a spectacular view. So the 3 observatories in the north of Chile are from north to south, ALMA, Paranal, and La Silla.

La Silla was ESO's first observatory. At night, when the Sun sets over La Silla, the starlight is literally raining down on the domes there. "La Silla" means "The Ridge" in Spanish, and the domes are all lined up along the ridge. In this video you can watch the Milky Way rise. You see the Carina Nebula, and the Coalsack coming up in the constellation of Crux, the Southern Cross.

For many years, La Silla was the stronghold for ESO and much of the astronomical world. It still has two quite productive 4-m telescopes: the New



Technology Telescope and the 3.6-metre.

Then there is Paranal, seen beautifully here with the 4 big telescopes and the ocean in the background 14 kilometers away. VLT has four, big 8-m telescopes and we call it one of the most advanced visible light observatories in the world. The telescopes are called Antu, Kueyen, Melipal, and Yepun. And then there are also the four smaller, 1.8-m auxiliary telescopes. The fun thing about the VLT mirrors is that although each of them is 8 metres wide, they are only 17 centimetres thick. And each mirror weighs about 23 tonnes.

Some of you will be very familiar with the problem we have on the ground, namely that the atmosphere acts as a big ocean and creates this twinkling of the stars that lovers walking enjoy, but astronomers do not, because it blurs the images. On the ground we

そして、政治的、経済的に安定しているので、その観点では問題がありません。そして光害と電波が少ないので綺麗に観測できます。最後に、南半球からだと天の川銀河を綺麗に見ることができます。実はチリには 3 つの観測所があります。



Silla は ESO 最初の観測所でした。これは Silla から見える星空です。



今、ここで、2 台の望遠鏡が頑張っています。ひとつはニューテクノロジーテレスコープ。もうひとつは ESO3.6m 望遠鏡です。

ここは Paranal です。大きい望遠鏡が 4 台あります。この写真の背景には海が綺麗に見えます。Paranal には 8m 望遠鏡が 4 台あり、世界最先端技術を持っている天文台です。大きな望遠鏡だけでなく、小さい 1.8m の望遠鏡も 4 台あります。大きな望遠鏡で面白い事は、鏡は 8.2m の大きさですが、厚さはたった 17cm しかないことです。そしてこのおかげでたった 23t という重さです。



この映像では、空気の揺らぎで星が動いて見えます。これは天文観測に邪魔になります。この星の揺らぎを直すために 3 つの技術を使います。まずは、Active optics。これは鏡が縦向きになると形を守る技術です。もうひとつは



## 招待講演 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

need to employ 3 different tricks to get sharper images. We use active optics to correct the shape of the mirror when the telescope tilts. We use adaptive optics employing laser guide stars to probe the atmosphere and correct for the aforementioned distortions in real time. And we use interferometry with several different telescopes to improve the image quality as if we were observing with a much larger telescope.

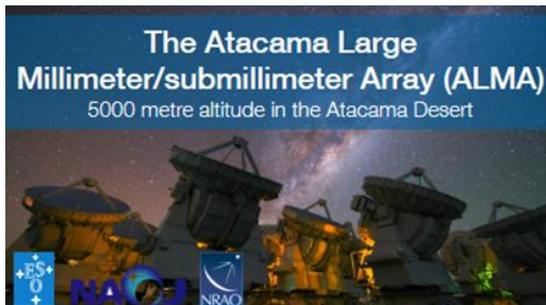
This is how it looks when the VLT is observing with its laser guide star. It's quite a spectacular view.



This is another view of the same thing. Actually this photograph was taken during the observing campaign that you saw in the mini-planetarium-show before, observing the centre of the Milky Way with the black hole.

I wish I knew some more Japanese, but he'll have to do.

There are many stories I could tell about ESO, but I have to move on slowly. But one thing to tell you about is La Residencia, which is the hotel for the astronomers and the visitors, shielding them from the harsh Atacama Desert. And every day 60,000 litres are drunk or used in various ways, such as showers. The water comes in trucks from the nearest city. And also as you can see, there is a swimming pool. It's not only to swim in, but also to make the atmosphere inside the hotel a little bit moist because of the very dry desert air.



Adaptive optics. これは人工のレーザー星を使って、その星を観測しながら大気の揺らぎを直します。最後は、干渉器を作って、複数の望遠鏡を干渉器のように使い、さらに大きな望遠鏡のように観測します。

これは、VLT が、レーザーガイド星を使って観測している様子です。



今ご覧いただいたのは、レーザー星を使って観測したもうひとつの映像です。

もっと日本語を知っていれば良かったですが、とりあえず通訳者に頼んでいます。

いろいろな面白い話がありますが、ここでひとつだけ紹介します。アタカマ砂漠で観測をするとき、だいたいの天文学者は La Residencia というホテルに泊まります。このホテルでは毎日 6 万リットルの水を使います。砂漠は本当に乾いている所なので、このプールは泳ぐ為だけではなく、プールのおかげでホテルの中の湿度がちょっとだけ上がり、楽に生活できます。



ALMA は ESO と北米、日本と東アジアなどの国際協力のプロジェクトです。ここで見える山の高さは 5000m、後ろに見える山は 7000m です。アンテナは 66 台あります。その中の 16 台は日本が作っています。

## Special Lecture 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

And ALMA is a collaboration, worldwide, between ESO; the East Asia Observatories represented by NAOJ; and Northern America represented by NRAO. This is how it looks at 5000 metres on the Chajnantor Plateau, surrounded by 7000 metre mountain peaks. There are 66 antennas, and 16 of those were made by Japan.

This is how it looks when ALMA is observing different targets. You can see the antennas moving back and forth in synchronized concert. The green and yellow lights are safety lights for the people. They don't disturb the observations.

And then of course there are the two transporters, amazing machines that move these heavy antennas from place to place; from a compact configuration to a wide 16 kilometres configuration giving sharper images with the interferometry.



これは ALMA 観測の映像です。この光は電波の観測を邪魔することはありません。



この大きな車でアンテナを運びます。

これは今作っている ELT という 39m の望遠鏡です。完成すると、素晴らしい可視光赤外線観測ができる予定です。

これからこの山頂で望遠鏡を作ります。



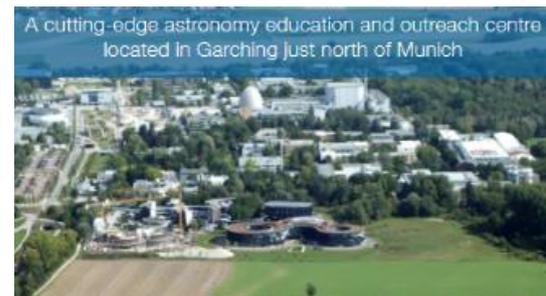
Finally, we have the European Extremely Large Telescope, one of the three extremely large telescopes being built. It will be 39 metres when finished. It is poised to revolutionize astronomy much the same way as Galileo's telescope did a bit more than 400 years ago.



The mountain top has just been flattened. I think this image is a few months old. Also, the road is almost done. You can see Paranal up here in the background some 20 kilometres away.

ここから今日の本題に入ります。プラネタリウムは宇宙を感じる所です。本当に不思議な所だと皆さん思うと思います。クラウド・チラさんが、ESO にプラネタリウムを作るお金を援助しました。

Now we're getting closer to the real topic of today. As many of you will agree, the planetarium is a unique environment to experience the Universe. This was the reason that 2 years ago Klaus Tschira from the Klaus Tschira Foundation decided to donate a huge planetarium and visitor centre to ESO. It will be a cutting-edge astronomy education and outreach centre in Garching just north of Munich. You can see



今、ミュンヘンより少し北の所で作っています。



# 招待講演 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

the construction here as of two weekends ago.

これは2週間前の工事中の映像です。



That's my office.

今指したのは、私の事務室です。



And this is how it looked 1 week ago...

→ 1週間前。

and today.



→ 今日。



It's an amazing project to follow. But let's not get carried away. This is how it will look in almost exactly 2 years from now in the 3rd quarter of 2017.

↑ 完成した時のCGです。

One of the unique things is that we don't charge any entrance fee for any of the activities. The facility has the planetarium and then it has areas for exhibitions. Temporary exhibitions will be located here on the left of this image and permanent exhibitions will be out on the ramps. There is a wide range of activities. The focal point will be the kids with school visits. But also target groups like families or teachers and even astronomers will be catered to.

この科学館は、完全に無料です。中心はプラネタリウムで、周りに色々な exhibition をできるスペースがあります。色々なイベントがあります。注目するのは学校見学ですが、対象は子どもたちから研究者まで様々なイベントがあります。

We're getting closer and closer to the real action

## Special Lecture 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

here. So as you can imagine, it's quite obvious, we have a very local rationale. People will be coming physically to visit the facility from Germany or from abroad. But because ESO is intergovernmental we also have a very strong international mandate. In this context, it means that anything we produce, be it planetariums or exhibitions, will be shared with you all internationally for free through creative commons.

Let me say just a few words about our educational program. We will engage young people through 10 different knowledge acquisition activities that will awaken their interest in science. The heart of the facility is a planetarium. It is equipped with state-of-the-art technology and a scientifically accurate database of 3 dimensional data about objects in the Universe from AMNH (American Museum of Natural History). Since Carter is here from AMNH, I have to mention it. The shows are displayed on a 14 metre dome which can seat up to 110. It is the largest dome of its kind in Germany, Austria, or Switzerland.

But we will argue that we have to change, at least in part, the way we present and distribute news and to some degree fulldome shows. We've had some explicit requests from the outreach and planetarium community. Before this year, there were no freely downloadable full planetarium shows. But low-budget, smaller domes also have a mission to communicate science to their audiences, especially students.

And finally, most importantly, we argue that we must connect the laypeople with the science and the data on a daily basis; so that when we have the next "Chelyabinsk event" or something like that, the planetarium facilities worldwide have a choice to talk about it during their sky at night module.

I look forward to discussing this with many of you during the next days and the next conference. Carter and I already started this morning. We had a great discussion.

Just 2 more slides about this, let's say, fairly heady but quite important topic. We believe that by using modern technology, databases, push technology, metadata standards, etc. we can provide data from all of the observatories on the ground and in space on a daily basis to the planetariums. That also goes for the weather tonight as seen by various meteorological satellites and the planetary flybys which Carter will also show you in a very nice way. We want this system to be freely available to any

もちろんこの科学館へはドイツからも海外からもお客様が来ます。難しい、具体的な科学館というだけではなく、ESO は国際的ですから、プラネタリウムショーなどここで作っているものは全て国際に開きます。これは無料で、世界中で使えるようになります。



子どもたちのために、教育 activity は 10 個以上あります。科学館の中心は最先端のプラネタリウムです。ドイツ、オーストリア、スイスの中の同じような形のプラネタリウムでは最大のものになります。

しかし、この新しいプラネタリウムを作りながら、プラネタリウム情報を世界中に普及する方法を今考え直している所です。皆でどうすればいいか考えています。ひとつは、これまでは、プラネタリウムショーで無料のものがありました。これから、色々なものを作っていきます。



あとは、新しい情報を配る方法が必要です。本当に、毎日毎日その日の一番、最新の情報が必要になります。普通の方と新しい研究のデータなどを直接繋ぐことが必要です。

どうしたらこの目的を達成できるのか、この新しい科学館を作りながら考えています。本当に重い話たくさんありますが、これから、このたくさんの情報を集めると、新聞のようなものを作ることができます。プラネタリウムを作っている人は朝に来て、今日の新しい情報を見て、今日はどんなショーをすれば良いのかを考えます。今日、どんなショーをすれば良いのか決まれば、それを作るために必要なツールは同じ所に入っています。



## 招待講演 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

planetarium worldwide. We hope and plan to have all the agencies sign up to delivering data using very little extra resources. Essentially, it's all there and available. We just have to take it, use it, and shape it. Each morning, the planetarium presenters should be able to select various items, for example an earthquake in Chile or Japan, and show them in context with interesting things happening in the sky.

This has been supported by the International Planetarium Society; and we hope that this could lead to a collaboration with the Open Space Project and the planetarium vendors who will ultimately have to sign up to the idea to build this integrated database.

We think many of these things, like news aggregation, are more or less ready. Actually, we have made that tool already and it is running on a daily basis. It is called the Portal to the Universe. It catches all the press releases issued worldwide and all the blogs about astronomy. But it is also editorially curated. All we have to do is integrate it. We have to provide instant access to these things. We have a thing called the internet. All we need is content distribution networks, so that the data is literally there on a server in Tokyo, in New York, in California, in Cape Town, in Santiago, or where ever. We also need these other things, some of which are already in production.

I'd love to talk more with you all in the next few days. It's very important we gather around a common set of tools and standards. These things already exist, like the astronomy visualization metadata which Ryan up here has been part of developing, the PDS or FITS formats, web map services, and other systems. We just have to agree that we use them and then prepare the necessary tools around them.

Needless to say this takes a liberal approach to licensing. We have to agree on an agency level that the data are free and accessible and that they can be used with attribution in this system called creative commons. But this is already true for many of these tools: the Hubble Data, ESO data, and NASA data. And ESA is going in the right direction. Everyone is talking about how to get the proprietary data out to the laypeople without violating the proprietary of the data and letting the PIs do their science. This is happening. I think all it needs is one last nudge before we will get that.

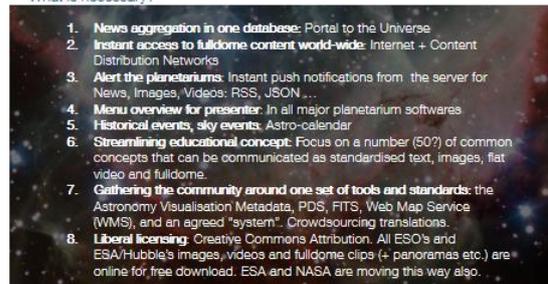
We have just one minute left over, so just let me talk

"The Astronomical Weatherman": Presenting fresh science, every day



このデータベースはオープンスペースと協力して、世界中の各天文台と協力して、その天文台はデータを出して、ここで整理して、世界中のプラネタリウムに出します。大切な事はここに書いてあります。最も重要な事だけ言うと、まずは世界中から集めるデータベースを作ります。これはプラネタリウムの皆さんの協力が必要です。

What is necessary?



皆さんがプラネタリウムで同じツールを使うと、皆がもっと簡単に協力することができます。しかし、そのために、どんなツールを使えば良いか、皆と一緒に考えなければなりません。

最後に、この情報については著作権について相談しなければなりません。これらが難しい点ですが、だんだんと皆は正しい方向へ向かっていると考えています。

もうひとつ、教育についてですが、最近気づいたのは、世界中で教育に必要な情報はなんとなくどんな国でも同じという事です。そしてここに集めたのは一般的な教育に必要な 50 個です。これは、月の形や四季など、このコンセプトを教えるために必要な映像や、必要な情報を全て集めて一緒に整理しています。

## Special Lecture 1 : The community-building initiatives from the ESO Supernova

a little bit more about this one because it's one of my pet peeves. So over the years, I've realized together with other people like Pedro Russo, also sitting here in the audience, that the educational concepts are actually very much the same thing. We've been able to list about 50 things which form the core concepts which are required to be taught to kids around the world. These things like the lunar phases, or the seasons, are very common to any curriculum, anywhere. Or if they're not in the curriculum, they should be in the curriculum. We believe by taking this limited set of topics; treating it properly with text, images, flat video, and fulldome; of course translating it to multiple languages using the resources in the community and crowd-sourcing those; that we can tie the community together and always have something ready-made whenever there is a full moon, or a lunar eclipse, or a half moon, or a quarter moon, or a meteor swarm, or things like this. When these things can be ready made at your fingertips we will have solved a lot of the problems.

It's late and we are hungry. We are getting to the very end now. "From Earth to the Universe" was our first fulldome show. We completed it this year. It is really the first fulldome show that you can go out and download directly off the internet. It looks like this. This number says 297 gigabytes. So it takes a bit more than a weekend on a normal dsl line. But that's about it. If you make use of a download manager, this is entirely possible.

We did this not to torpedo the economy for the fulldome producers, many of which are actually here in this room. We did it to truly deliver something of a decent quality, but not the top of the line like you guys are making, show to domes that literally cannot afford licensed shows. It is available in 4K resolution with surround sound. It has been translated into 9 languages, including the Japanese version which we will see now, and out in the community there're about a dozen more languages which are in production at the moment. We are truly grateful and also a little bit proud that since we generated this little boat and set out to sail it, that so far it seems to be gaining momentum.

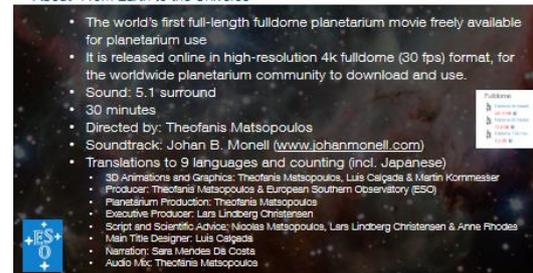
Many thanks for the translation and many thanks to you for listening. ありがとう.

*From Earth to the Universe screened.*



今からご覧いただく「From Earth to the Universe」は、ESO の最初のフルレンジスフルドームの映像です。これは世界で最初のフルレンジスフルドームの無料映像です。

### About "From Earth to the Universe"



これは、本当にお金の無いプラネタリウムを助けるために作りました。インターネットから無料でダウンロードできます。現在この映像は日本語を含む 9 つの言語バージョンがありますが、今 13 の言語のバージョンを作っている途中です。



*From Earth to the Universe 上映*



### カーター・エマート氏 Dr. Carter Emmart

The Director of Astrovisualization

at the Rose Center for Earth and Space at the American Museum of Natural History,  
in New York City

(ニューヨーク市アメリカ自然史博物館、地球・宇宙ローズセンターの宇宙可視化担当ディレクター)

I want to thank you all, once again for inviting me back to Japan for what has become part of a tradition of collaboration between your academia and industry with my museum.

I wanted to address you all briefly today on a new software project we have begun between AMNH and Linkoping University in Sweden with whom we have been collaborating since 2002, and from which Uniview and it's parent company SCISS were created. The collaboration has been in the form of hosting Linkoping interns for masters level thesis projects at AMNH to conduct original work in challenging topics of interactive space visualization.



In 2010, I spent the first four months of that year at Linkoping to direct the movie, All We Are which used the scaling techniques devised for Uniview to add micro scale visualization to the traditional macro scale we teach in planetariums. In late night discussions with my friend and colleague, Anders Ynnerman, we discussed our dreams for a purely academic, open software without commercial concerns that would allow the best and latest ideas from visualization research to be applied to the astrophysical subjects we wanted to see.

We call this new software OpenSpace. Linkoping support enabled hiring a PhD track visualization programmer, named Alex Bock for the position as code master. The foundation of this open-source project started by designing a modular plug-in architecture with a list of basic functionality developed through the Uniview collaboration but extending that for an emphasis on visualizing

私は、皆様の研究機関や産業界と私どもの博物館とで協力し合う形で実施されているこの会のために再度日本へご招待いただけましたことを感謝いたします。

私は今回アメリカ自然史博物館(AMNH)とスウェーデンのリンコピン(Linkoping)大学との間で始めている新しいソフトウェア・プロジェクトについて手短かに話させていただけます。このプロジェクトは2002年から始めたもので、そこからUniviewとその母体となったSCISS社も始まっています。このコラボレーションは元々AMNHがLinkoping大学の修士論文のためのインターン学生達を受け入れる形で始めたもので、インタラクティブな宇宙可視化にチャレンジさせるというものでした。

映像制作を教えるため、私は2010年の初めから4か月間をリンコピン大学で過ごしました。「All We Are」ではUniviewに、プラネタリウムで使うような伝統的なマクロスケールだけでなく、マイクロスケールの可視化も可能にするスケーリング・テクニックを組み込んでいます。友人であり仲間でもあるAnders Ynnermanとの深夜にわたる議論の中で、商業的ではない純粋に学術的なopen softwareに関する我々の夢を語り合いました。それは我々が見てみたい天体物理学的なテーマに応用できる可視化研究からの最良かつ最新のアイデアとなるものです。

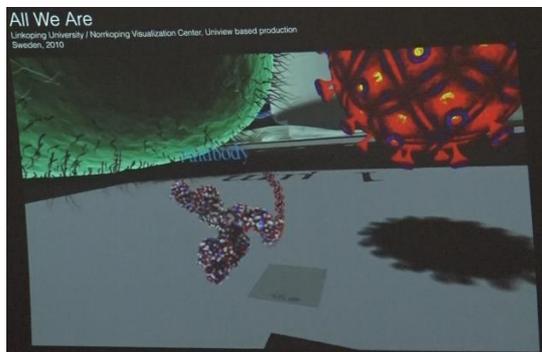


私たちはこの新しいソフトウェアをOpenSpaceと呼ぶことにしました。リンコピン大学は博士課程の可視化プログラマーAlex Bockをコードマスターとして雇うとい

## 招待講演 2 : OpenSpace

dynamics, volumetric rendering, and detailed space mission visualization.

In 2012, AMNH began production on our space show Dark Universe. I became unavailable to host interns, but was able to engage interest at NASA Goddard Spaceflight Center's space weather analysis team. Techniques developed at Linkoping for interactive volumetric rendering were tested in our first internship at NASA as the OpenSpace architecture was being developed back in Sweden. This has grown into a series of six internships, making space physics a core focus for OpenSpace.



Last year, starting in August, I was able to host the first OpenSpace internship at AMNH to visualize the New Horizons flyby of Pluto. The challenge was to visualize the science observations and perform accurate image projection from camera to target. In a second internship starting in February of this year, we then took these methods from the Pluto visualization and applied them to the Rosetta mission orbiting Comet 67P / Churyumov-Gerasimenko.

We are now working toward integrating these methods to show both space mission imagery and modeling of space weather to give a bigger picture of both the seen and unseen. These techniques are also generic enough to apply to other areas of astronomy and astrophysics such as image projection to sky and visualizing three dimensional modeling of processes at any scale. We are considering now the addition of supporting the FITS image format for higher bit range manipulation of both gathered and generated imagery.

This software also inherits other open-source results from research at Linkoping such as scalable display integration for high resolution projection on domes, power walls, and stereo graphics. This has allowed us to successfully mount this software on top of multiple vendor hardware systems. We have

う便宜を図ってくれました。この open-source プロジェクトの基盤は基本的機能性のリストに従ったモジュラー・プラグイン・アーキテクチャーのデザインから始めました。Uniview に組み込んで行く過程の中で可視化ダイナミクス、ヴォリュームリック・レンダリング、そして詳細なスペースヘミッションの可視化を発展させています。

我々AMNH は、2012年にプラネタリウム番組 Dark Universe の制作を開始しました。私の方のインターン受け入れはできなくなったのですが、NASA Godard Space Flight Center の宇宙天気解析チームに興味を持ってもらうことができました。OpenSpace アーキテクチャーが NASA における最初の研修生による研究として試された Linkoping 大学のボリュームリック・レンダリング技術はその成果がスウェーデンに持ち帰られました。それが宇宙物理に貢献する OpenSpace の中核に位置するものとして 6 種の研修生コースとして発展しました。

昨年の 8 月に、AMNH における最初の研修生を受け入れ、New Horizons flyby to Pluto の可視化をスタートさせました。研究内容は科学観測の可視化とカメラからターゲットへの正確な映像投影を演出して見せることでした。第二期の研修生は今年の 2 月から受け入れ、内容は冥王星可視化の技術を Comet 67P / Churyumov-Gerasimenko を周回する Rosetta ミッションに応用するというものです。

我々は今、見えるものや見えないものをより大きいサイズの画像を与えるための宇宙ミッションの画像と宇宙天気モデリングを示すことができる双方の手法を統合させることを目指しています。これらのテクニックは、天文学や天体物理学以外への応用であっても、例えば空間へのイメージプロジェクションやどんなスケールの 3 次元モデリングの可視化作業においても応用できるという大変包括的なものです。我々はさらに複数の画像を統合して作られたより高いビットレンジを持つ FITS 画像をサポートすることを目論んでいます。



## Special Lecture 2 : OpenSpace

successfully demonstrated this on Sky Skan, SCISS and E&S.



For Pluto encounter on July 14th of this year, we used networking to connect twenty remote sites of OpenSpace around the world. My student, Michal Marcinkowski who made the Pluto flyby visualization controlled these remote sites from mission control during the actual event. Well known producer, Geoff Haines-Stiles played host to mission scientists on a Google Hangouts who guided Michal to show us all what was happening at Pluto at that very moment according to the pre-programmed observation sequence. Takahei-San was one of the global participants helping to translate some of the discussion here in Japan. On August 11th, I was at Science Centre Singapore and conducted a live event with the Hayden Planetarium, revisiting the flyby this time with the new images updating our view of Pluto.



The interest generated by this global event has opened possibilities for future ones, because OpenSpace is free to download under an open-source

このソフトはまた Linkoping 大学で行われた他の open-source による成果を引き継いでいます。例えばドームや power walls へのハイレゾリューション投影とステレオ画像等のスケーラブル・ディスプレイ統合などです。このソフトはマルチプル・ベンダー・ハードウェア・システムの頂点に上手くマウントさせることを可能にします。ですからこれを Sky Scan、SCISS あるいは E&S のソフト上でデモを行うことが出来ました。

7月14日の冥王星接近では世界中にある20か所のOpenSourceサイトと繋ぐ networking に使われました。わたくしの学生である Michal Marcinkowski が冥王星フライバイ visualization を作成し、実際のイベントでこれらのリモートサイトをコントロールしたのです。有名なプロデューサー Geoff Haines-Stiles 氏がホストをし、ミッション・サイエンティストの Google Hangouts 氏は Michal が冥王星で起こっているすべての事柄を私たちに示せるようにガイドしました。つまり当初にプログラムされた観測時系列に沿ったそれぞれの事象全てをです。高幣さんは、世界からの参加者の一人として日本での議論の一部を訳すのを手伝ってくれました。8月11日に私はシンガポール科学館に居て、Hayden Planetarium とのライブイベントを指導しました。新たにアップデートされた冥王星の新しい画像を使って flyby の再演を行ったのです。

この地球規模のイベントで生じる興味は将来の可能性を開きました。それは OpenSpace が open-source ライセンス承諾のもとに無料でダウンロードできるからであり、研究の範囲内なら興味を持ってくれるようなグループや学校に対しても分かりやすく複雑な現象を正確な解説付の可視化映像によるマルチサイト・デモンストレーションでフォローできるからでもあります。そのようなイベントのアーカイブ作成を自動化した Google Hangouts 氏は、さらに flyby イベントを誰でも再演可能にしてくれました。

今年の5月に私の博物館は NASA のパブリックアウトリーチと教育活動が行っている call for assistance に応募しました。我々の申請は入り組んだトピックスを一般の皆さんへの理解へと導くための将来のツールである

## 招待講演 2 : OpenSpace

licensing agreement, it makes it within reach of any interested party or school to follow along in multi-site demonstration of complicated phenomena made understandable through visualization aided by authoritative narrative. The Google Hangouts automated archiving of such events has also made our flyby event available to anyone for later review.

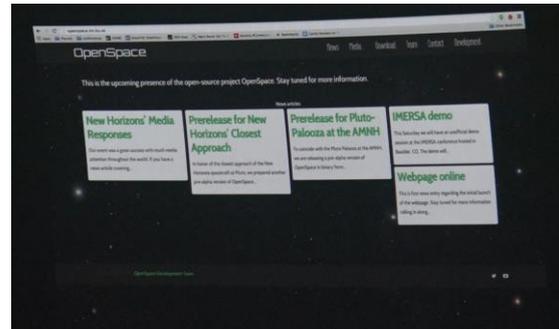
In May of this year, my museum applied to NASA's call for assistance in their public outreach and educational activities. Our entire application was built around the vision of OpenSpace being a tool for the future to bring complex topics into general understanding by well crafted visualization with access to authoritative description even if remotely delivered.

It is my hope that after collaborating with Japan on nearly all of our space shows, with simulations and visualizations from NAOJ and with our partner, GOTO, that this new path with OpenSpace may help further our collaboration in general.



Thank you all, once again for the honor to present to you all today.

OpenSpace が構築されたことによりです。それは、例えば離れた場所であっても信頼できる説明へアクセスできる優れた技術による可視化を使うというものです。



殆どすべての番組制作にわたる国立天文台からのシミュレーションや可視化に関する私たちへの協力、あるいはパートナーとしての五藤光学からの協力をいただいておりますが、将来は今日お話したような OpenSpace が将来の協力関係の基となってほしいということが私の希望であることを申し上げたいと思います。

皆様有難うございました。今回皆様に講演させていただきましたことに対し改めて御礼申し上げます。



# 公式サイト・Youtubeチャンネル・中継・SNS・広報物

国際科学映像祭の情報発信の為、公式サイトその他、Youtubeチャンネルでの映像配信、Ustreamを使用したライブ中継、Twitter/Facebookでの告知を行った。

## 公式サイト

<http://image.sci-fest.net/>

PV (ページビュー) : 864849 ※  
ユーザー数 : 237262 ※  
(2015年2月~2016年1月)

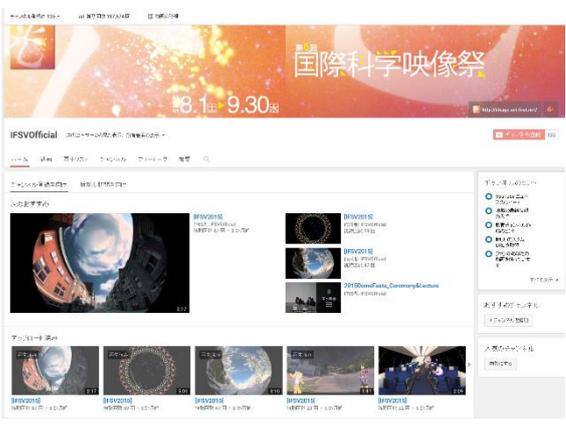
※東京国際科学フェスティバル (TISF) とマルチドメインのため、アクセス数は合算されている

内容：  
国際科学映像祭の概要、各イベントの紹介、参加会場MAPなど

## Youtubeチャンネル

<https://www.youtube.com/user/IFSVOOfficial>

動画再生回数総計 : 187,674 回  
(2016年1月21日現在)



内容：  
・ドームフェスタ上映作品トレーラー、ショートプログラムコンテスト入賞作品の配信、ライブ中継動画のアーカイブ



第6回国際科学映像祭の開催について

更新情報

- 2015-10-8 会場入場券販売を開始しました！
- 2015-10-7 ショートプログラムコンテスト優秀発表会を開催しました！
- 2015-09-1 トレーラー・ドームフェスタ上映作品の動画を配信しました！(キャッチャーアプリのみ、お楽しみください)
- 2015-09-1 ドームフェスタ上映作品申込みを開始しました！(たくさんのお申し込みありがとうございます！)
- 2015-08-11 ドームフェスタ上映作品申込みを開始しました！
- 2015-08-07 ドームフェスタ上映作品、応募受付のご案内、エントリーのご案内を開始しました！
- 2015-08-02 ドームフェスタ上映プログラムの発表を行いました！
- 2015-07-22 ドームフェスタ上映作品の受付を開始しました！
- 2015-07-09 キックオフイベントの開催を行いました！
- 2015-07-08 科学映像上映会のご案内を開始しました！
- 2015-07-02 スタンプラリー・会場のご案内、販売開始を行いました！
- 2015-04-28 ドームフェスタ上映作品の発表を行いました！
- 2015-04-23 ショートプログラムコンテストの発表会を行いました！
- 2015-04-23 開催決定の発表会を開催しました！
- 2015-04-23 第6回国際科学映像祭のウェブサイトを開始しました！

全国約4,500ヵ所にて作品上映やスタンプラリーを行います

協力機関/団体リスト

- 天文学振興会
- International Festival of Scientific Visualization - 国際科学映像祭

© Organizing Committee for The 6th International Festival of Scientific Visualization, 2015

# 公式サイト・Youtubeチャンネル・中継・SNS・広報物

## ライブ中継

<http://www.ustream.tv/channel/qBFczDaxdXA>

以下のプログラムをライブ中継

### 第6回国際科学映像祭 ドームフェスタ in 郡山

- ・9月23日(水・祝)
  - 16:00-16:30・開会行事
  - 16:30-17:30・国際光年特別セッション
  - 18:10-19:30・特別講演1
- ・9月24日(木)
  - 16:00-16:40・特別講演2
- ・9月26日(土)
  - 11:05-12:30・閉会行事

総視聴者数:251

Twitter @ifsv\_info



## 広報物

### リーフレット



## SNS

Twitter @ifsv\_info



Facebook

<https://www.facebook.com/IFSV.Official/>



### ポスター



## 第6回国際科学映像祭：主催・共催・協力団体

### 主催

第6回国際科学映像祭実行委員会

### 共催

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
国立天文台  
第7回国際科学フェスティバル実行委員会

### 後援

宇宙航空研究開発機構  
日本プラネタリウム協議会  
映像文化製作者連盟

### 協力団体 (五十音順)

株式会社アイカム  
あすたむらんど徳島  
アストロデザイン株式会社  
石垣島天文台  
板橋区立教育科学館  
株式会社エクス  
大阪科学技術館  
大阪市立科学館  
沖縄科学技術大学院大学  
合同会社科学成果普及機構  
(有)KAGAYA スタジオ  
葛飾区郷土と天文の博物館  
川崎市青少年科学館  
ギャラクシディ  
京都大学大学院理学研究科附属天文台  
釧路市子ども遊学館  
群馬県生涯学習センター少年科学館  
バンドー神戸青少年科学館  
郡山市ふれあい科学館  
(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)  
国立科学博物館  
株式会社五藤光学研究所  
コニカミノルタプラネタリウム株式会社  
さいたま市青少年宇宙科学館

### 協力団体 (五十音順) つづき

さいたま市宇宙劇場  
堺市教育文化センター ソフィア・堺プラネタリウム、  
相模原市博物館  
さぬきこどもの国  
島根県立三瓶自然館サヒメル  
自然科学研究機構国立天文台  
白井市文化センター・プラネタリウム  
(同)スターライトスタジオ  
(株)セガトイズ  
仙台市天文台  
株式会社ソリッドレイ研究所  
高崎市少年科学館  
多摩六都科学館  
千葉市科学館  
中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)  
公益財団法人つくば科学万博記念財団  
ディスカバリーパーク焼津天文科学館  
有限会社天窓工房  
なかの Zero プラネタリウム  
兵庫県立大学自然・環境科学研究所天文科学センター  
日本科学未来館  
コニカミノルタサイエンスドーム  
(八王子市子ども科学館)  
はまぎん 子ども宇宙科学館  
東大阪市立児童文化スポーツセンター ドリーム 21  
東大和市立郷土博物館  
株式会社ビクセン  
公益財団法人日立市民科学文化財団  
姫路科学館  
平塚市博物館  
広島市子ども文化科学館  
藤沢市湘南台文化センター子ども館  
公益財団法人府中文化振興財団  
船橋市総合教育センタープラネタリウム館  
プラネターリアム銀河座  
宮城菓子店  
盛岡市子ども科学館  
株式会社モンタージュ  
八重泉酒造  
山梨県立科学館  
ラフォーレ琵琶湖  
理化学研究所  
りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)  
株式会社リブラ  
株式会社渡辺教具製作所

# 第6回国際科学映像祭：会計報告

## 第6回国際科学映像祭：決算書

### 【収入】

| 項目    | 内訳                            | 数量 | 単価@     | 合計        |
|-------|-------------------------------|----|---------|-----------|
| 前年度繰越 | (昨年度分利子¥84- 含む)               | 1  | 405,960 | 405,960   |
| 参加費   | ドームフェスタ参加費1日券 (@2000)         | 15 | 2,000   | 30,000    |
|       | ドームフェスタ参加費4日通し券 (@3000)       | 87 | 3,000   | 261,000   |
| 国立天文台 | 運営費交付金                        | 1  | 600,000 | 600,000   |
| 寄付    | 天文学振興募金                       | 1  | 50,000  | 50,000    |
|       | 天文学振興募金 (8/20)                | 1  | 49,975  | 49,975    |
| 出品料   | ドームフェスタ ¥20,000*20作品          | 20 | 20,000  | 400,000   |
| 出展料   | ドームフェスタブース ¥10,000*7出展 (団体数5) | 7  | 10,000  | 70,000    |
| 利子    | (2015.6~2016.1月)              | 1  | 77      | 77        |
| パンケット | 参加費                           | 96 | 5,000   | 480,000   |
|       | 小計                            |    |         | 2,347,012 |
|       | 合計                            |    |         | 2,347,012 |

### 【支出】

| 項目     | 内訳                                      | 数量 | 単価@     | 現金        |
|--------|---|----|---------|-----------|
| 旅費/謝金  | 海外招聘講師等旅費                               | 1  | 565,191 | 565,191   |
|        | 講師謝金                                    | 2  | 100,000 | 200,000   |
|        | コンテスト審査員招聘謝金 2名分                        | 2  | 15,000  | 30,000    |
|        | アルバイト謝礼@8000×3人日                        | 3  | 8,000   | 24,000    |
|        | 小計                                      |    |         | 819,191   |
| システム費  | Webレンタルサーバー費                            | 1  | 93312   | 93312     |
|        | ドメイン経費                                  | 1  | 3888    | 3888      |
|        | グローバルサインクリエイティブ認証SSL1年                  | 1  | 37584   | 37584     |
|        | ドメイン新規取得費(ifsv.org)                     | 1  | 1852    | 1852      |
|        | 小計                                      |    |         | 136,636   |
| 広報・出版費 | ポスター台紙デザイン費                             | 1  | 162,000 | 162,000   |
|        | ポスター(B2 コート再生紙135kg)印刷費 1000枚           | 1  | 33,140  | 33,140    |
|        | 折り加工800枚                                | 1  | 2,800   | 2,800     |
|        | フライヤー/台紙(A4上質110kg表カラー裏モノクロ)印刷費 40,000枚 | 1  | 101,440 | 101,440   |
|        | 小計                                      |    |         | 299,380   |
| 記念品    | コンテスト記念品・盾                              | 1  | 32,400  | 32,400    |
|        | 送料(EMS)                                 | 1  | 7,000   | 7,000     |
|        | 送料トロフィー(KAGAYA)                         | 1  | 656     | 656       |
|        | 送料トロフィー(郡山)                             | 1  | 656     | 656       |
|        | 小計                                      |    |         | 40,712    |
|        | ドームフェスタパンケット                            | 95 | 5,000   | 475,000   |
|        | 小計                                      |    |         | 475,000   |
| その他経費  | 口座関係手数料                                 | 1  | 3,470   | 3,470     |
|        | 郵便代                                     | 1  | 1,046   | 1,046     |
|        | 事務局旅費補助                                 | 2  | 13,180  | 26,360    |
|        | 配布物、賞状等紙代                               | 1  | 15,829  | 15,829    |
|        | ショートプログラムコンテスト審査員弁当代                    | 8  | 972     | 7,776     |
|        | スライス費用                                  | 1  | 108,000 | 108,000   |
| 次年度繰越金 |   | 1  | 413,612 | 413,612   |
|        | 小計                                      |    |         | 576,093   |
|        | 合計                                      |    |         | 2,347,012 |

|    |  |  |   |
|----|--|--|---|
| 収支 |  |  | 0 |
|----|--|--|---|

以上の通り会計報告を致します。  
平成28年 1月 29日

担当者氏名 波田野 聡美 

会計収支報告・領収書等を監査した結果、収支内容が適正に処理されていることを認めます。

監査者氏名 鬼嶋 清美 

監査者氏名 守藤 幸丸 

\*任期は2015年4月1日から1年間

### 実行委員長

---

鳥 宏道 (日本プラネタリウム協議会)

### 副実行委員長

---

伊東 利幸 (郡山市ふれあい科学館)

### 会計監査

---

安藤 幸央 ((株) エクサ)  
鬼嶋 清美 (株式会社五藤光学研究所)

### 実行委員

---

縣 秀彦 (国立天文台)  
安蔵 俊成 (理化学研究所 広報室)  
安藤 享平 (郡山市ふれあい科学館)  
池本 誠也 (国立科学博物館)  
川村 智子 (株式会社アイカム)  
高橋 洋一 (アストロデザイン株式会社)  
田中 正明 (株式会社五藤光学研究所)  
田部 一志 (株式会社リブラ)  
広橋 勝 (スターライトスタジオ)  
藤掛 曜平 (コニカミノルタプラネタリウム株式会社)  
本間 隆幸 (府中市郷土の森博物館)  
三浦 昭 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)

### 事務局長

---

二見 広志 (国立天文台/天窓工房)

### 事務局

---

安藤 享平 (郡山市ふれあい科学館)  
伊東 昌市  
岩下 由美  
田部 一志 (株式会社リブラ)  
並木 優子 (Astrolab)  
波田野 聡美 (国立天文台)  
平井 明 (コニカミノルタプラネタリウム株式会社)  
広橋 勝 (スターライトスタジオ)  
本間 隆幸 (府中市郷土の森博物館)

### スタンプラリー事務局

---

川村 智子 (株式会社アイカム)

2009年にプレイベントを開催した国際科学映像祭は事実上の発足以来まる8年が経過しました。この間、多くの優れた科学映像、ドーム映像を世に出すこと、クリエイターの新たな活躍の場とコミュニティを創生してきたのみならず、一般の人々への科学映像の普及にも努めてきました。

一方、近年では、ドームフェスタが国際科学映像祭のメインの行事となってきました。最初に掲げた理想とはやや違ったものになってきた感は否めませんが、科学映像を志すクリエイターにとって、ドーム映像は現在の日本においては唯一の「ゆりかご」であったようです。多くのプラネタリウム館がある程度の予算をドーム映像の上映に割いてくれている状況は、世界的な傾向でもあります。ドームに多くのクリエイターが参集し、いろんな分野へ巣立っていくような、そんな時代がやってくるのかも知れません。

第7回国際科学映像祭は、新たなクリエイターの発掘、国内外から優れた映像作品が登場してくるための素地作り、もちろんデジタルプラネタリウムとの連携、IPSなど関連団体との連携、あわせてコミュニティ全体の発展を念頭に企画を練っていくことにしたいと思います。

2016年1月27日

国際科学映像祭実行委員会



2015 年度国際科学映像祭報告書

# 国際科学映像祭

International Festival of Scientific Visualization

主催： 第 6 回国際科学映像祭実行委員会  
共催： 大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台  
第 7 回東京国際科学フェスティバル実行委員会

2016 年 3 月 2 日 第 6 回国際科学映像祭実行委員会 発行